

FutureNet NXRシリーズ ユーザーズガイド GUI編

Ver.9.4.2 対応版



目次

はじめに	5
第1章 本装置の概要	6
. 本装置の特長	7
. 各部の名称と機能 <NXR-G240(/L)>	8
. 各部の名称と機能 <NXR-G260(/L)>	12
. 動作環境	16
第2章 装置の設置	17
. 装置の設置に関する注意点	18
. 装置の設置 <NXR-G240(/L)>	19
. 装置の設置 <NXR-G260(/L)>	20
第3章 設定方法の概要	21
. 本装置の GUI へのログイン	22
. 本装置の CLI へのログイン	23
. HTTPサーバの起動	26
. GUI で設定可能な項目	27
第4章 インタフェース設定	28
. Ethernet I/F	29
1. Ethernet	29
. PPP/ モバイル	34
1. PPP / モバイルアカウント	34
2. PPPoE	43
3. モバイル設定	44
. WiFi	45
1. WiFi 設定	45
第5章 ネットワーク	47
. IPv4	48
1. スタティックルート	48
2. 固定 ARP	49
3. NAT	50
. DHCP	55
1. DHCP ネットワーク	55
2. DHCP ホスト	58
3. DHCP リレー	58
. DNS	59
. WarpLink	60
. NTP	61
第6章 VPN	62
. IPsec	63
1. IPsec トンネル	63
2. IPsec 全体設定	73
3. IPsec 認証設定	76
. L2TPv3	80

1. L2TPv3 接続設定	80
2. L2TPv3 全体設定	83
第7章 ファイアウォール	86
アクセスリスト	87
1. IPv4 アクセスリスト	87
第8章 ユーザインタフェース	89
. SSH	90
1. SSH サービス	90
2. SSH 鍵(netconf)	90
. NETCONF	91
1. NETCONF	91
. CRP	92
1. CRP グローバル	92
2. CRP クライアント	94
第9章 システム設定	95
I. システム設定	96
1. 本装置のパスワード	96
2. ホスト名	96
3. 内蔵時計	97
4. セッション数	97
. ログ	98
1. システムログ	98
2. ログメール	99
. 設定情報	100
1. 設定の保存	100
2. 設定の復帰	100
3. 設定のリセット	101
. ファームウェア	102
1. ファームウェアアップデート	102

. スケジュール	103
. M2M モード	104
第 10 章 運用機能	105
. ネットワーク診断	106
1. Ping	106
2. Traceroute	106
. パケットダンプ	107
1. パケットダンプ	107
2. パケットダンプ結果表示	108
. ログ情報	109
1. システムログ	109
2. ブートログ	109
. システム情報	110
1. システム情報	110
2. テクニカルサポート	110
3. システムモニター	111
. 再起動	112
. インタフェース	113
. ディスク管理	114
. サポート情報	115
付録 サポートについて	116

はじめに

ご注意

- 1 本装置の故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外部要因によって、通信の機会を逸したために生じた損害などの純粋経済損失につきましては、当社はいっさいその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 2 通信情報が漏洩した事による経済的、精神的損害につきましては、当社はいっさいその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 3 本書の内容の一部または全部を無断で転載、複写することを禁じます。
- 4 本書およびソフトウェア、ハードウェア、外観の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
- 5 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。

商標の表示

「FutureNet」はセンチュリー・システムズ株式会社の登録商標です。

その他の記載されている商品名、会社名は、各社の商標または登録商標です。

第1章

本装置の概要

第1章 本装置の概要

. 本装置の特長

FutureNet NXRシリーズの「製品概要」、「製品の特徴」、「仕様」等については、弊社のWebサイトを参照してください。

FutureNet NXR-G240(/L)

<http://www.centurysys.co.jp/products/router/nxrg240.html>

<http://www.centurysys.co.jp/products/router/nxrg240l.html>

FutureNet NXR-G260(/L)

<http://www.centurysys.co.jp/products/router/nxrg260.html>

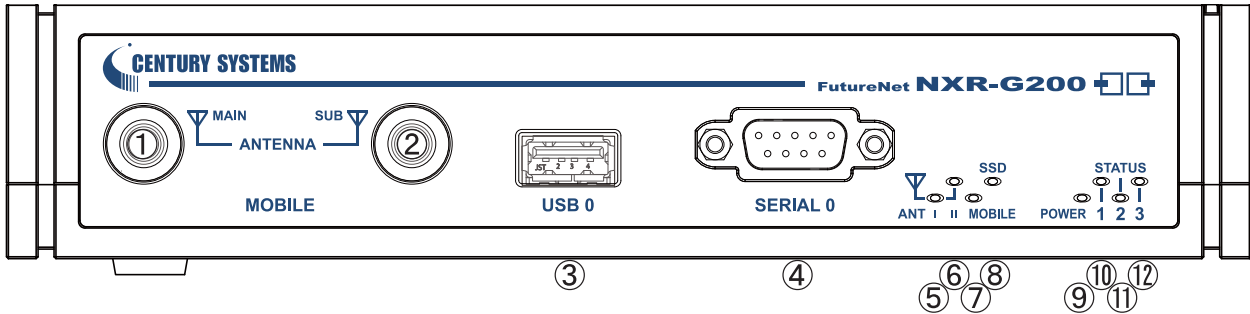
<http://www.centurysys.co.jp/products/router/nxrg260l.html>

第1章 本装置の概要

各部の名称と機能 <NXR-G240(/L)>

各部の名称

製品前面



ANTENNA (MAIN) (NXR-G240/L のみ)

ANTENNA (SUB) (NXR-G240/L のみ)

対応するアンテナ(オプション)を装着します。
本装置は、屋外でのアンテナの使用には対応していません。
アンテナを屋外に設置する場合は別途ご相談ください。

USB 0 ポート

USB Flash メモリ、または USB タイプのデータ通信端末を挿入します。

SERIAL 0 ポート(コンソールポート)

CLI 接続の際に使用します。
RS-232C ケーブルを接続します。

ANT I LED

ANT II LED

モバイルの電波強度を示します。

圏外

- 0
- 1
- 2
- 3

MOBILE LED

モバイルモジュールのステータスを示します。

- モジュール停止 :
- モジュール起動 :
- PPP 接続 :

SSD LED

SSD のステータスを示します。

- SSD 未装着時 :
- SSD 装着時 :

POWER LED

本装置の電源状態を示します。

STATUS 1 LED

STATUS 2 LED

STATUS 3 LED

本装置のシステムおよび、サービスのステータスを示します。

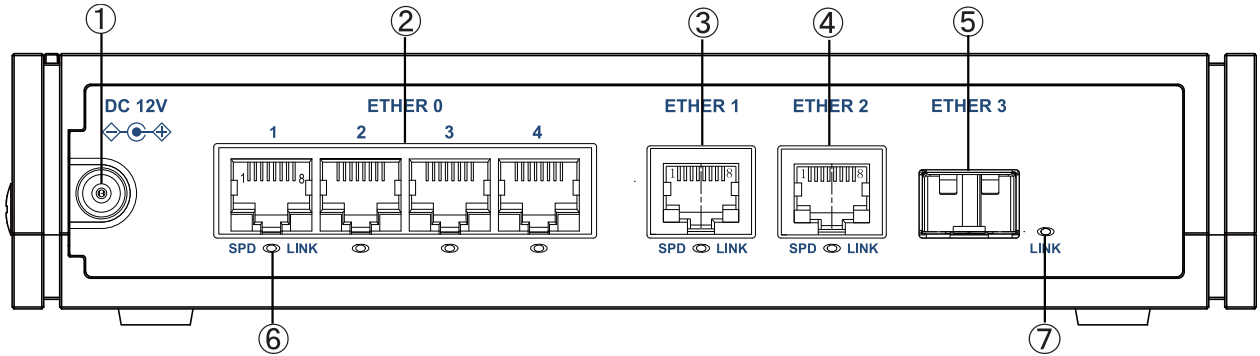
システムおよびサービスのステータス LED の表示

電源投入時	:	
システム起動中	:	* -
システム起動後 (ログイン可能状態)	:	- -
PPP/Tunnel 等の切断状態 (configurable)	:	- - -
PPP/Tunnel 等の接続状態 (configurable)	:	- - -
SD カード未装着時	:	- - -
SD カード装着時	:	- - -
温度異常 (warning)	:	* - - -
温度異常 (critical)	:	- - -
ファームウェア更新中	:	- * - -
ファームウェア更新失敗	:	- - - -
システム異常	:	
省電力モード (サスペンド)	:	* - - -
省電力モード (レジューム)	:	- - - -

第1章 本装置の概要

各部の名称と機能 <NXR-G240(/L)>

製品背面



DC 12V 電源コネクタ

製品付属の AC アダプタを接続します。

ETHER 0 ポート

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 対応の Ethernet ポートです。主に LAN 側ポートとして使用します。

ETHER 1 ポート

ETHER 2 ポート

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 対応の Ethernet ポートです。主に WAN 側ポートとして使用します。

ETHER 3 ポート(NXR-G240 のみ)

SFP モジュール(オプション)を装着します。
弊社がサポートする SFP モジュールを使用してください。
通信速度は、1Gbps (固定) です。

SPD/LINK LED

ETHER ポートの接続速度、および LINK 状態を示します。

10BASE-T モードで接続時 :
100BASE-TX モードで接続時 :
1000BASE-T モードで接続時 :
Link Down 時 :

LINK LED(SFP)(NXR-G240 のみ)

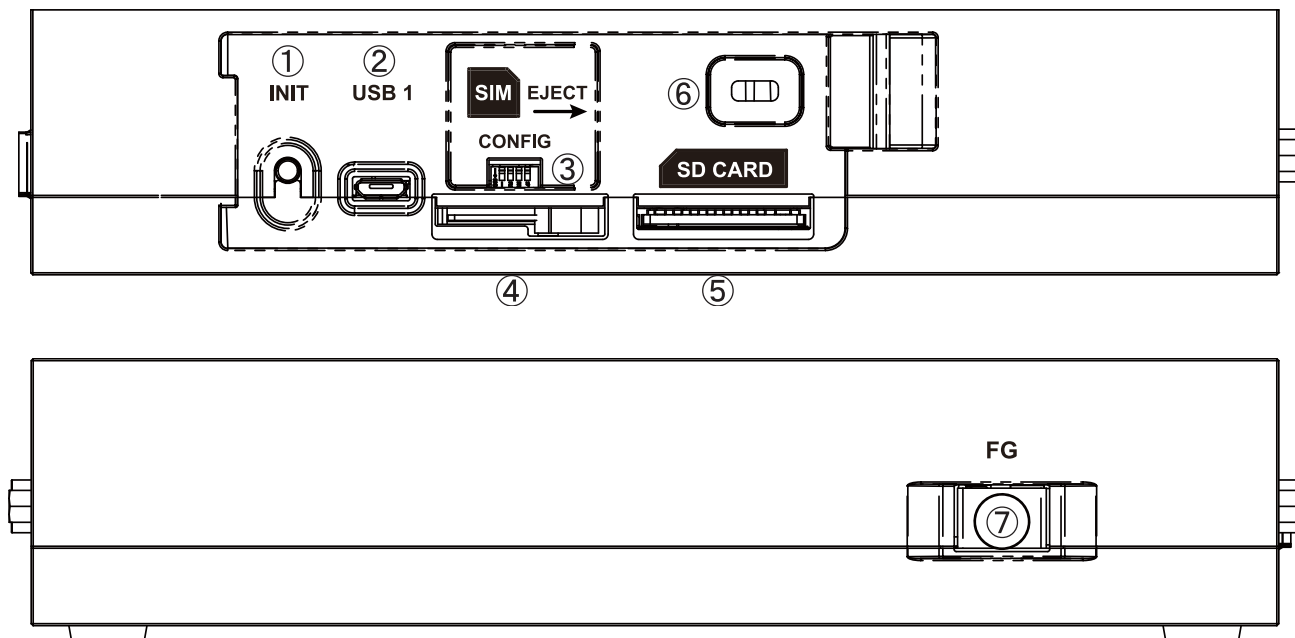
ETHER 3 ポートのリンク状態を示します。

Link Down 時 :
Link UP 時 :

第1章 本装置の概要

各部の名称と機能 <NXR-G240(/L)>

製品側面



INIT ボタン

本装置を工場出荷時の設定に戻して起動するときに使用します。

1. Init ボタンを押しながら電源を投入します。
2. STATUS1 LED が、次の状態になるまで、Init ボタンを押したままにしておきます。
3. STATUS1 LED が点灯()したら、速やかに Init ボタンを放します。本装置が工場出荷設定で起動します。

USB 1 ポート

CLI 接続の際に使用します。

USB ケーブル (microB) を接続します。

CONFIG

コンソールポートの切替に使用します。

SERIAL 0 を使用する場合：上上上上

USB 1 を使用する場合：上上上下

SIM カードスロット (NXR-G240/L のみ)

SIM カードを挿入します。

SD カードスロット

SD カードを挿入します。

セキュリティスロット

ケンジントロックに対応しています。

FG(アース)端子

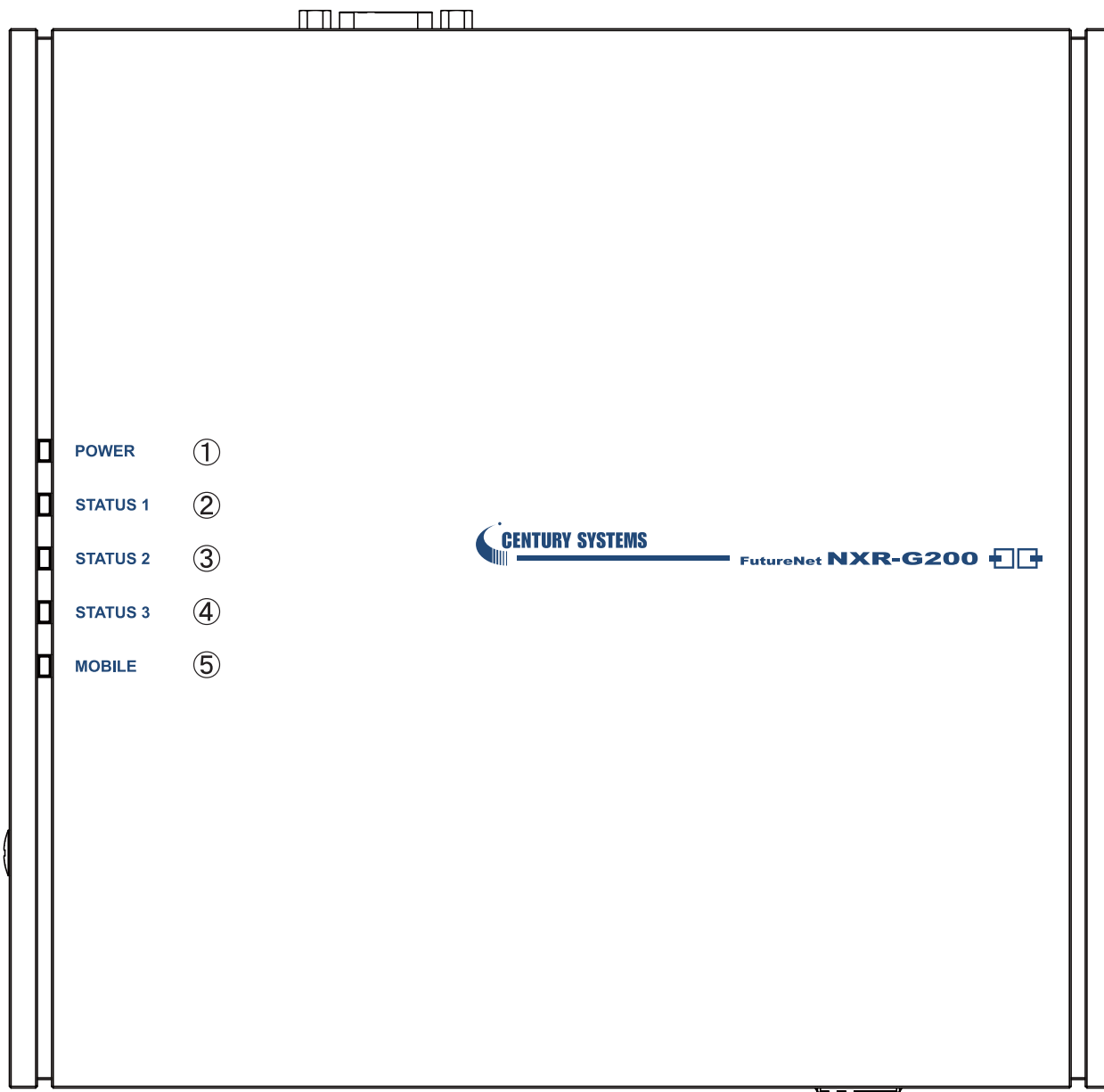
保安用接続端子です。

必ずアース線を接続してください。

第1章 本装置の概要

. 各部の名称と機能 <NXR-G240(/L)>

製品上面



POWER LED

製品前面の該当項目を参照してください。

STATUS 1 LED

STATUS 2 LED

STATUS 3 LED

製品前面の該当項目を参照してください。

MOBILE LED

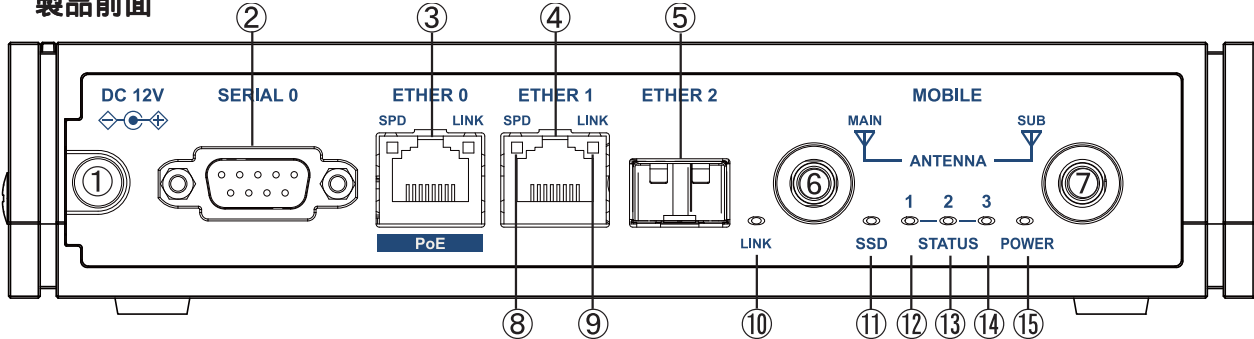
製品前面の該当項目を参照してください。

第1章 本装置の概要

各部の名称と機能 <NXR-G260(/L)>

各部の名称

製品前面



DC 12V 電源コネクタ

製品付属の AC アダプタを接続します。

SERIAL 0 ポート(コンソールポート)

CLI 接続の際に使用します。

RS-232C ケーブルを接続します。

ETHER 0 ポート

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 対応の Ethernet ポートです。主に LAN 側ポートとして使用します。

ETHER 1 ポート

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 対応の Ethernet ポートです。主に WAN 側ポートとして使用します。

ETHER 2 ポート(NXR-G260 のみ)

SFP モジュール(オプション)を装着します。

弊社がサポートする SFP モジュールを使用してください。

通信速度は、1Gbps (固定) です。

ANTENNA (MAIN) (NXR-G260/L のみ)

ANTENNA (SUB) (NXR-G260/L のみ)

対応するアンテナ(オプション)を装着します。

本装置は、屋外でのアンテナの使用には対応していません。

アンテナを屋外に設置する場合は別途ご相談ください。

SPD LED

ETHER ポートの接続速度を示します。

10BASE-T モードで接続時 :

100BASE-TX モードで接続時:

1000BASE-T モードで接続時:

LINK LED

ETHER ポートのリンク状態を示します。

Link Down 時:

Link UP 時 :

LINK LED(SFP)(NXR-G260 のみ)

ETHER 2 ポートのリンク状態を示します。

Link Down 時 :

Link UP 時 :

SSD LED

SSD のステータスを示します。

SSD 未装着時 :

SSD 装着時 :

STATUS 1 LED

STATUS 2 LED

STATUS 3 LED

本装置のシステムおよび、サービスのステータスを示します。

POWER LED

本装置の電源状態を示します。

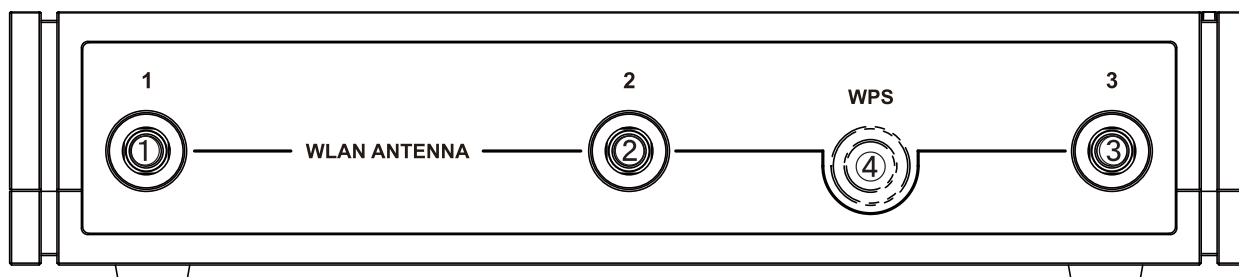
システムおよびサービスのステータス LED の表示

電源投入時	:	
システム起動中	:	* -
システム起動後 (ログイン可能状態)	:	- -
PPP/Tunnel 等の切断状態 (configurable)	:	- - -
PPP/Tunnel 等の接続状態 (configurable)	:	- - -
SD カード未装着時	:	- - -
SD カード装着時	:	- - -
温度異常 (warning)	:	- - - *
温度異常 (critical)	:	- - -
ファームウェア更新中	:	* - - -
ファームウェア更新失敗	:	- - -
システム異常	:	
省電力モード (サスペンド)	:	*
省電力モード (レジューム)	:	- - - -

第1章 本装置の概要

. 各部の名称と機能 <NXR-G260(/L)>

製品背面



WLAN ANTENNA

WLAN ANTENNA

WLAN ANTENNA

付属のWLAN アンテナを装着します。

WPS

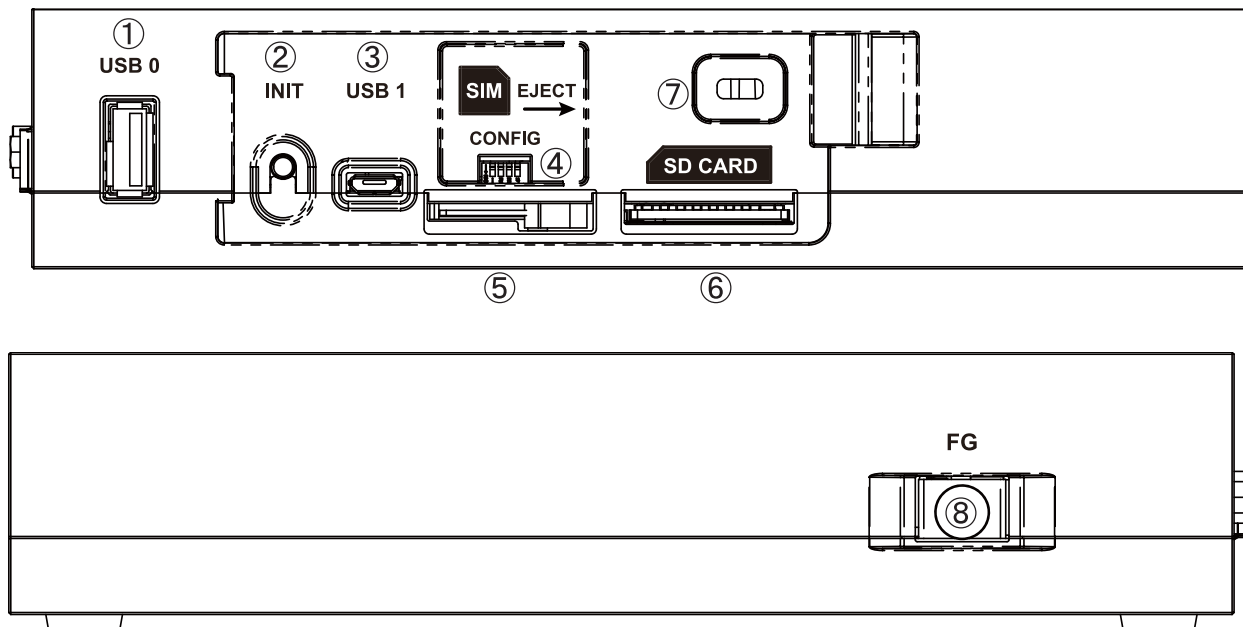
本装置は、WPSに対応しています。

詳細は、interface wlan modeを参照してください。

第1章 本装置の概要

各部の名称と機能 <NXR-G260(/L)>

製品側面



USB 0 ポート

USB Flash メモリ、または USB タイプのデータ通信端末を挿入します。

INIT ボタン

本装置を工場出荷時の設定に戻して起動するときに使用します。

1. Init ボタンを押しながら電源を投入します。
2. STATUS1 LED が、次の状態になるまで、Init ボタンを押したままにしておきます。
3. STATUS1 LED が点灯()したら、速やかに Init ボタンを放します。本装置が工場出荷設定で起動します。

USB 1 ポート

CLI 接続の際に使用します。
USB ケーブル (microB) を接続します。

CONFIG

コンソールポートの切替に使用します。

SERIAL 0 を使用する場合 : 上上上上

USB 1 を使用する場合 : 上上上下

SIM カードスロット (NXR-G260/L のみ)

SIM カードを挿入します。

SD カードスロット

SD カードを挿入します。

セキュリティスロット

ケンジントンロックに対応しています。

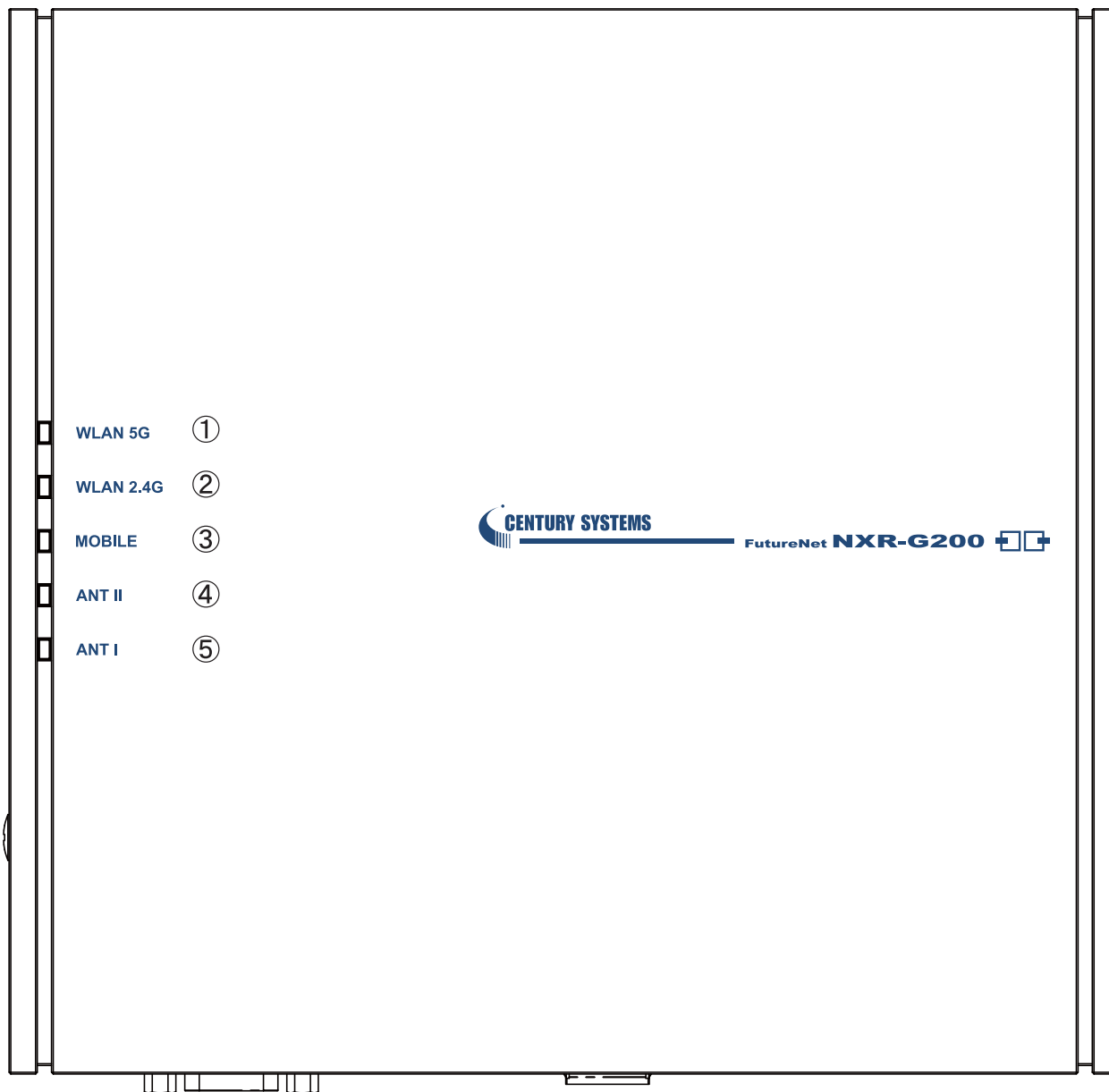
FG(アース)端子

保安用接続端子です。
必ずアース線を接続してください。

第1章 本装置の概要

. 各部の名称と機能 <NXR-G260(/L)>

製品上面



WLAN 5G LED

WLAN 2.4G LED

WLAN のステータスを示します。

正常 : *

異常 :

MOBILE LED

モバイルモジュールのステータスを示します。

モジュール停止 :
モジュール起動 :
PPP 接続 :

ANT II LED

ANT I LED

モバイルの電波強度を示します。

圏外
0
1
2
3

本製品をお使いいただくには、以下の環境を満たしている必要があります。

ハードウェア環境

- ・本製品に接続するコンピュータの全てに、LAN インタフェースがインストールされていること。
- ・ADSL モデム /CATV モデム /ONU に、10BASE-T、100BASE-TX または 1000BASE-T のインターフェースが搭載されていること。
- ・本製品と全てのコンピュータを接続するためのハブやスイッチングハブが用意されていること。
- ・本製品と全てのコンピュータを接続するために必要な種類のネットワークケーブルが用意されていること。

ソフトウェア環境

- ・TCP/IP を利用できる OS がインストールされていること。
- ・GUI で本装置にログインする場合は、接続されている全てのコンピュータの中で少なくとも1台に、ブラウザがインストールされていること。弊社では Internet Explorer 9 で動作確認を行っています。

なおサポートにつきましては、本製品固有の設定項目と本製品の設定に関する OS 上の設定に限らせていただきます。

OS 上の一般的な設定やパソコンにインストールされた LAN ボード / カードの設定、各種アプリケーションの固有の設定等のお問い合わせについてはサポート対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

第2章

装置の設置

第2章 装置の設置

・装置の設置に関する注意点

本装置の各設置方法について説明します。

下記は設置に関する注意点です。よくご確認いただいてから設置してください。

注意！

本装置は直射日光が当たるところや、温度の高いところには設置しないようにしてください。
内部温度が上がり、動作が不安定になる場合があります。

注意！

ACアダプタのプラグを本体に差し込んだ後にACアダプタのケーブルを左右および上下に引っ張らず、
緩みがある状態にしてください。
抜き差しもケーブルを引っ張らず、コネクタを持って行ってください。
また、ACアダプタのケーブルを足などで引っ掛けてプラグ部に異常な力が掛からないように配線にご注
意ください。

注意！

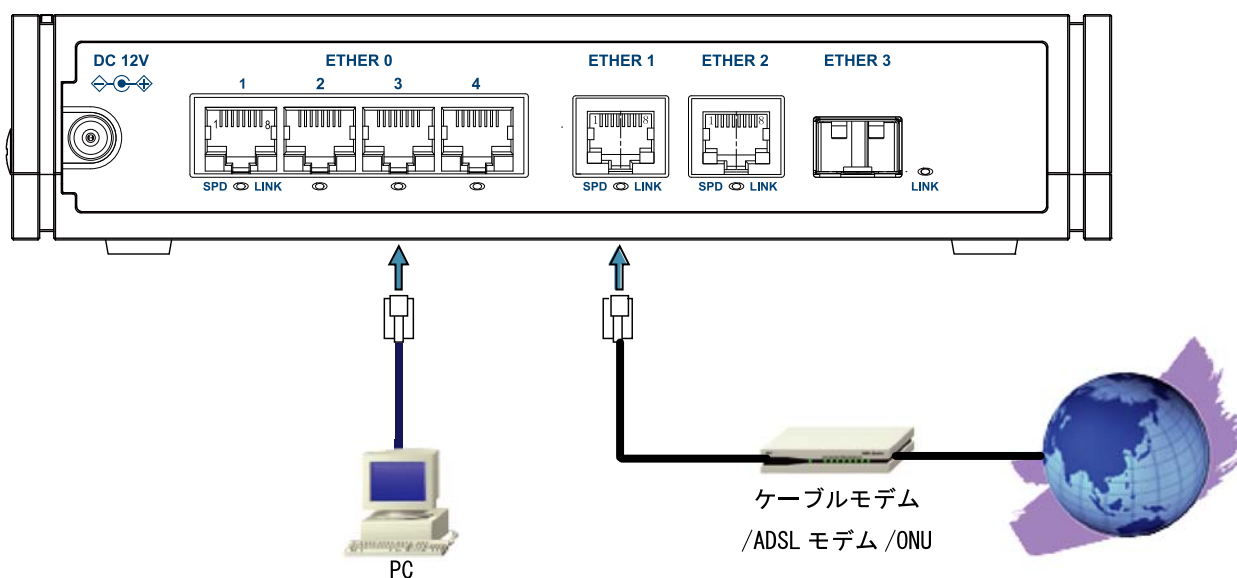
本装置側でも各ポートでARP tableを管理しているため、PCを接続しているポートを変更するとそのPC
から通信ができなくなる場合があります。このような場合は、本装置側のARP tableが更新されるまで
(数秒～数十秒)通信できなくなりますが、故障ではありません。

第2章 装置の設置

装置の設置 <NXR-G240(/L)>

NXR-G240 と、PC や ADSL モデム / ケーブルモデム / ONU は、以下の手順で接続してください。

接続図 <例>



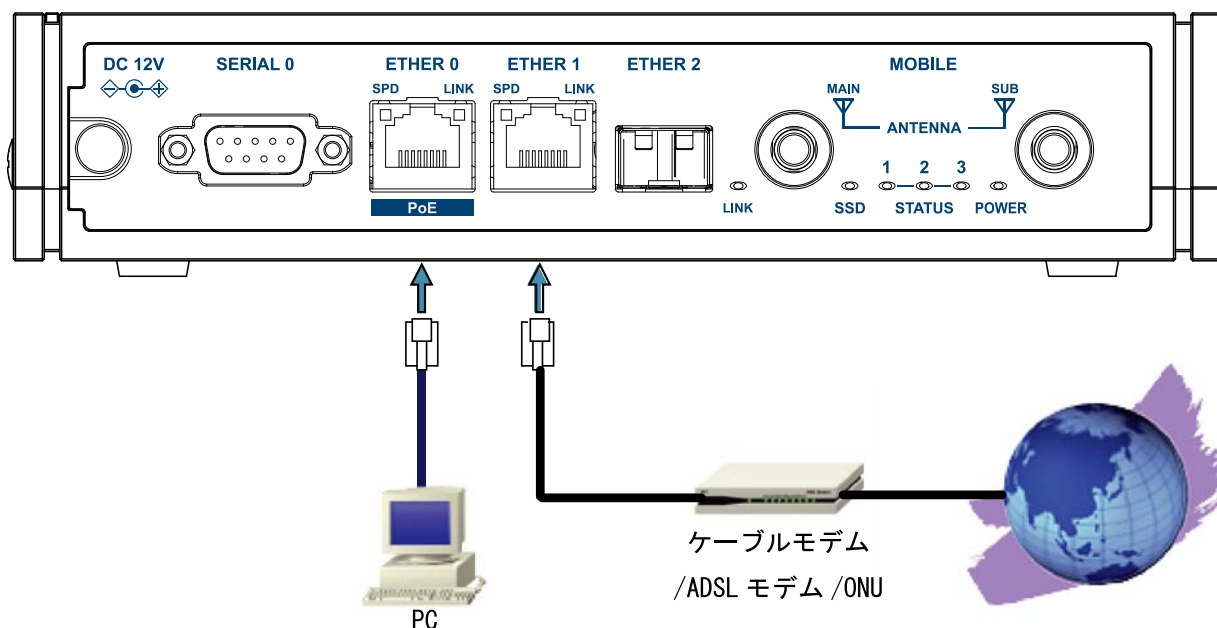
- 1 本装置と ADSL モデム / ケーブルモデム / ONU や PC ・HUB など、接続する全ての機器の電源が“ OFF ”になっていることを確認してください。
- 2 本装置の前面にある Ether 1 ポートと、ADSL モデム / ケーブルモデム / ONU を、LAN ケーブルで接続してください。
- 3 本装置の前面にある Ether 0 ポートと、HUB や PC を LAN ケーブルで接続してください。
工場出荷設定状態の場合、本装置へのログインは、Ether 0 ポートに接続した PC からおこないます。
本装置の全 Ethernet ポートは Gigabit Ethernet、AutoMDI/MDI-X に対応しています。
- 4 本装置と電源アダプタ、電源アダプタとコンセントを接続してください。
- 5 全ての接続が完了しましたら、各機器の電源を投入してください。

第2章 装置の設置

．装置の設置 <NXR-G260(/L)>

NXR-G260 と、PC や ADSL モデム / ケーブルモデム / ONU は、以下の手順で接続してください。

接続図 <例>



- 1 本装置と ADSL モデム / ケーブルモデム / ONU や PC ・ HUB など、接続する全ての機器の電源が “ OFF ” になっていることを確認してください。
- 2 本装置の前面にある Ether 1 ポートと、ADSL モデム / ケーブルモデム / ONU を、LAN ケーブルで接続してください。
- 3 本装置の前面にある Ether 0 ポートと、HUB や PC を LAN ケーブルで接続してください。
工場出荷設定状態の場合、本装置へのログインは、Ether 0 ポートに接続した PC からおこないます。
本装置の全 Ethernet ポートは Gigabit Ethernet、AutoMDI/MDI-X に対応しています。
- 4 本装置と電源アダプタ、電源アダプタとコンセントを接続してください。
- 5 全ての接続が完了しましたら、各機器の電源を投入してください。

第3章

設定方法の概要

第3章 本装置へのログイン

・本装置の GUI へのログイン

本装置の GUI へのログイン

1. 本装置の ETHER 0 ポートと PC を LAN ケーブルで接続します。

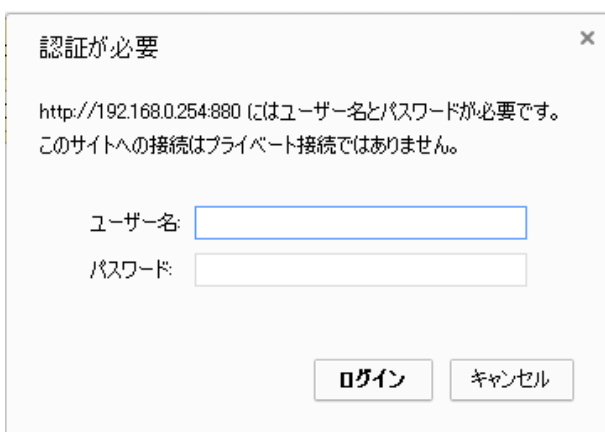
2. PC で Web ブラウザを起動します。

ブラウザのアドレス欄に、以下の IP アドレスとポート番号を入力してください。

http://192.168.0.254:880/

192.168.0.254 は、ETHER 0 ポートの工場出荷時の IP アドレスです。アドレスを変更した場合は、そのアドレスを指定してください。**設定画面のポート番号 880 は変更することができません。**

3. 認証ダイアログ画面が表示されます。ユーザ名、パスワード共に「admin」(工場出荷設定)を入力してログインします。

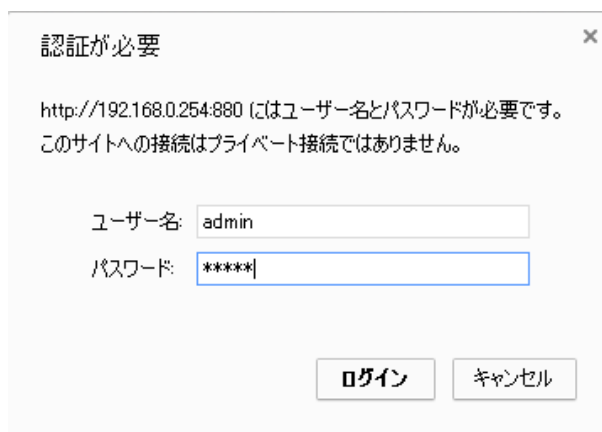


認証が必要

http://192.168.0.254:880 にはユーザ名とパスワードが必要です。
このサイトへの接続はプライベート接続ではありません。

ユーザ名:

パスワード:



認証が必要

http://192.168.0.254:880 にはユーザ名とパスワードが必要です。
このサイトへの接続はプライベート接続ではありません。

ユーザ名:

パスワード:

4. 下記のような画面が表示されます。以上で、本装置の GUI へのログインは完了です。



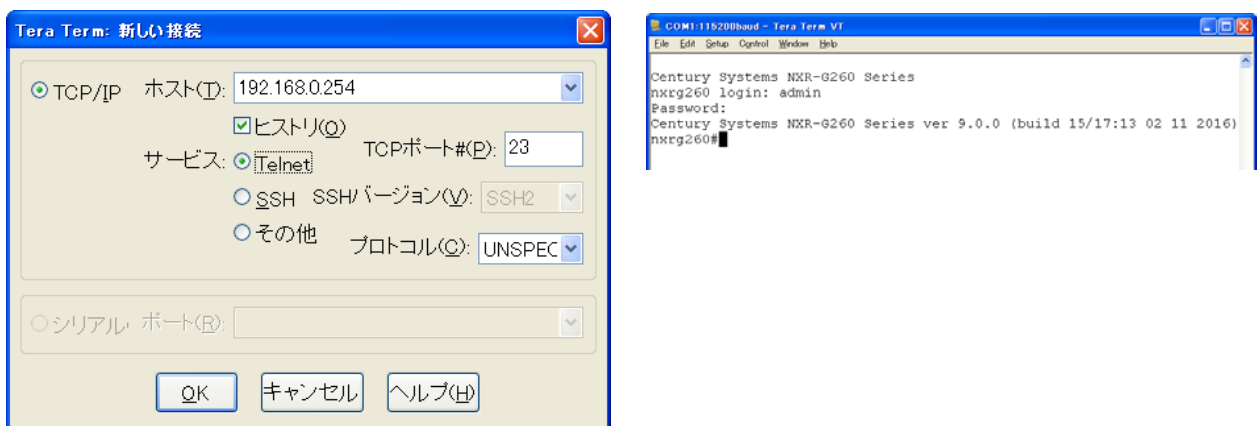
第3章 本装置へのログイン

・本装置のCLIへのログイン

本装置のCLIへのログイン(TELNET)

1. 本装置のETHER 0ポートとPCをLANケーブルで接続します。
2. PCからTELNET接続を開始すると、ログイン画面が表示されます。
3. ユーザ名、パスワード共に「admin」(工場出荷設定)を入力してログインします。

<画面はTeraTermによるTelnetのログイン画面です>



以上で、本装置のCLIへのログインは完了です。

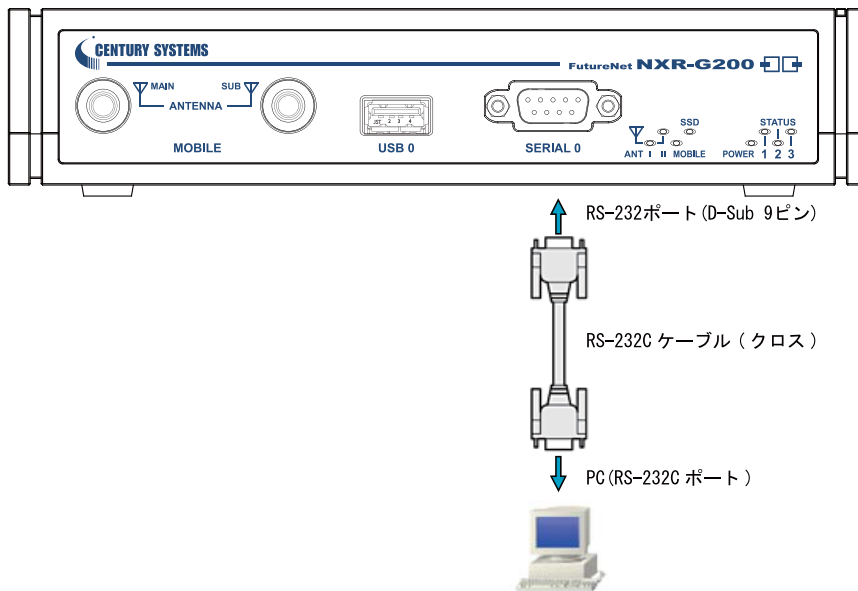
第3章 本装置へのログイン

・本装置の CLI へのログイン

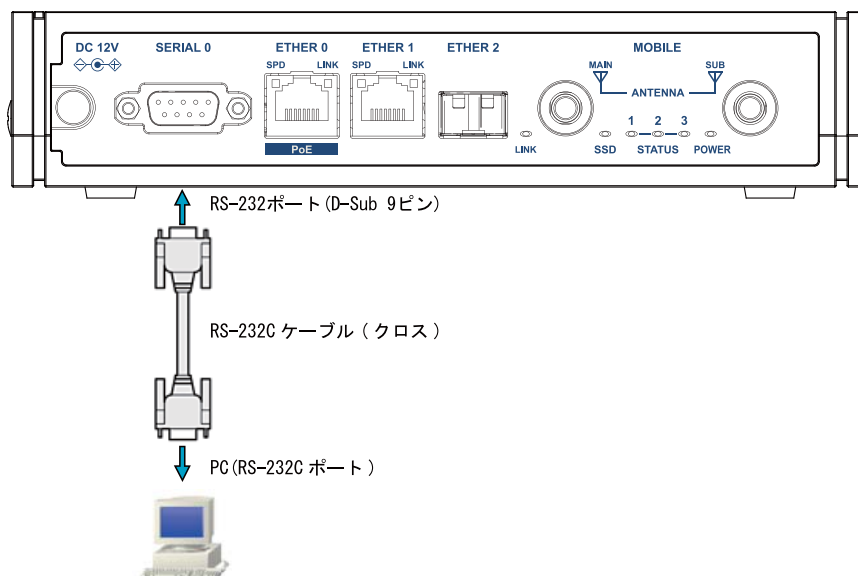
本装置の CLI へのログイン(CONSOLE)

1. 本装置前面の CONSOLE ポートと変換アダプタを、LAN ケーブルで接続します。接続に使用する以下の部品は、製品に付属されています。
 - ・LAN ケーブル(ストレート、1 m)
 - ・RJ-45/D-sub9 ピン変換アダプタ(クロス)
2. 変換アダプタのコネクタを、PC の RS-232C ポートに接続してください。

< NXR-G240 >



< NXR-G260 >

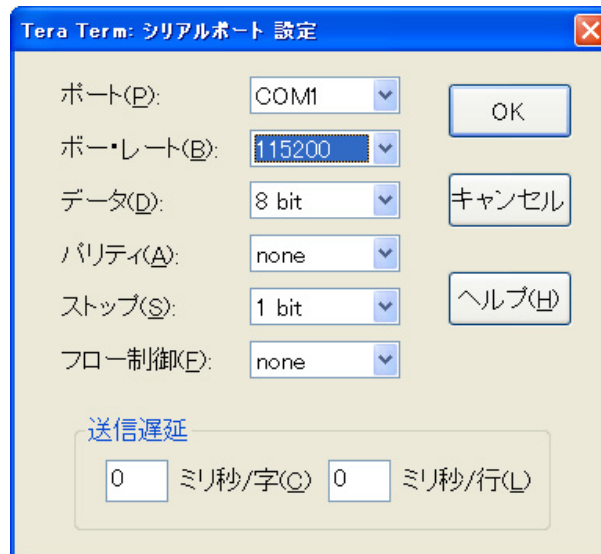


第3章 本装置へのログイン

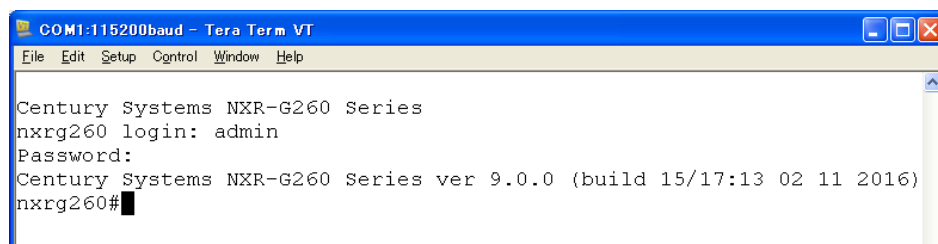
・本装置のCLIへのログイン

本装置のCLIへのログイン(CONSOLE) < 続き >

3. 本装置を接続したPCで、設定用のターミナルソフト(TeraTerm 等)を起動します。
4. 接続条件設定は以下のように設定します。 < 設定例(TeraTerm での接続設定画面) >
設定方法については、ご使用の各ターミナルソフトの説明書をご覧ください。



5. 「Return」キーまたは「Enter」キーを押すと、ログイン画面が表示されます。
6. ユーザ名、パスワード共に「admin」(工場出荷設定)を入力してログインします。



以上で、本装置のCLIへのログインは完了です。

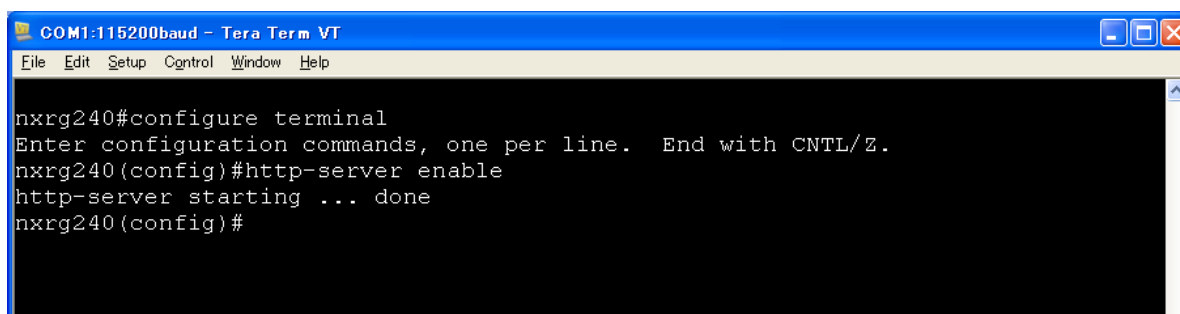
第3章 本装置へのログイン

4. HTTPサーバの起動

HTTPサーバの起動

本装置の工場出荷設定状態で電源を投入するとHTTPサーバが起動しますが、設定変更等によりHTTPサーバが起動しない場合は、下記の手順でHTTPサーバを起動してください。

1. CLIにログインした後、「configure terminal」コマンドで、CONFIGURATIONモードに移行します。
2. 「http-server enable」コマンドを実行して、HTTPサーバを起動します。



```
COM1:115200baud - Tera Term VT
File Edit Setup Control Window Help
nxrg240#configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
nxrg240(config)#http-server enable
http-server starting ... done
nxrg240(config)#
```

以上で、HTTPサーバの起動は完了です。

第3章 本装置へのログイン

・ GUI で設定可能な項目

本装置の GUI で設定可能な項目の一覧です。

[インタフェース]

Ethernet I/F

- ・ Ethernet

PPP/ モバイル

- ・ PPP/ モバイルアカウント
- ・ PPPoE
- ・ モバイル設定

WiFi

- ・ WiFi 設定

[ネットワーク]

IPv4

- ・ スタティックルート
- ・ 固定 ARP
- ・ NAT

DHCP

- ・ DHCP ネットワーク
- ・ DHCP ホスト
- ・ DHCP リレー
- ・ DNS
- ・ WarpLink
- ・ NTP

[VPN]

IPsec

- ・ IPsec トンネル
- ・ IPsec 全体設定
- ・ IPsec 認証設定

L2TPv3

- ・ L2TPv3 接続設定
- ・ L2TPv3 全体設定

[ファイアウォール]

アクセスリスト

- ・ IPv4 アクセスリスト

[ユーザインタフェース]

SSH

- ・ SSH サービス
- ・ SSH 鍵 (netconf)

NETCONF

- ・ NETCONF

CRP

- ・ CRP グローバル
- ・ CRP クライアント

[システム設定]

システム設定

- ・ 本装置のパスワード
- ・ ホスト名
- ・ 内蔵時計
- ・ セッション数

ログ

- ・ システムログ
- ・ ログメール

設定情報

- ・ 設定の保存
- ・ 設定の復帰
- ・ 設定のリセット

ファームウェア

- ・ ファームウェアアップデート
- ・ スケジュール
- ・ M2M モード

[運用機能]

ネットワーク診断

- ・ Ping
- ・ Traceroute

パケットダンプ

- ・ パケットダンプ
- ・ パケットダンプ結果表示

ログ情報

- ・ システムログ
- ・ ブートログ

システム情報

- ・ システム情報
- ・ テクニカルサポート
- ・ システムモニター
- ・ 再起動

27 ・ インタフェース

- ・ ディスク管理
- ・ サポート情報

第4章

インタフェース設定

第4章 インタフェース設定

. Ethernet I/F

1. Ethernet

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

インタフェース
Ethernet I/F
・Ethernet

Ethernet

インタフェース	IPアドレス	MTU	リンクモード	状態	編集
ethernet0	192.168.0.254/24	1500	ポート1:auto ポート2:auto ポート3:auto ポート4:auto	ポート1: ●UP (1Gbps/全二重) ポート2: ●DOWN ポート3: ●DOWN ポート4: ●DOWN	編集
ethernet1		1500	auto	●DOWN	編集
ethernet2		1500	auto	●DOWN	編集
ethernet3		1500	auto	●DOWN	編集

設定するインタフェースを選択して「編集」をクリックします。

ethernet1	
IPアドレス割当方式	固定アドレス ▼
固定アドレス	
IPアドレス	
DHCPクライアント	
ホスト名	
インタフェース	
Keepalive	10
MTU	1500
リンクモード	自動 ▼
詳細設定	編集
PPPoE	編集
フィルタ	編集
NAT	編集
保存	

IPアドレス割当方式

「固定アドレス」/「DHCPクライアント」をプルダウンから選択してください。

IPアドレス割当方式	固定アドレス ▼
固定アドレス	固定アドレス DHCPクライアント

[固定アドレス]

IPアドレス

「固定アドレス」を選択した場合に入力してください。IPアドレス/マスクビット値の形式で入力してください。

[入力例] 192.168.1.254/24

[DHCPクライアント]

ホスト名

「DHCPクライアント」を選択した場合に入力してください。必要がなければ、空欄でも構いません。

[インタフェース]

Keepalive

Ethernetポートのリンク状態を定期的に監視します。OSPFの使用時にリンクダウンを検知した場合、そのインタフェースに関連付けられたルーティング情報の配信を停止します。再度リンク状態がアップした場合には、そのインタフェースに関連付けられたルーティング情報の配信を再開します。監視間隔は、1-60[秒]の間で設定できます。また、0を設定すると、リンク監視を行いません。デフォルト値は、10[秒]です。

MTU

「Path-MTU-Black-HOLE」現象が発生した場合等は、この値を変更することで回避できます。通常は初期設定の1500[バイト]のまま構いません。

リンクモード

リンクモードをプルダウンから選択してください。工場出荷設定は「自動」です。

リンクモード	自動 ▼
	自動 自動(1000Mbps除く) 100Mbps/全二重 100Mbps/半二重 10Mbps/全二重 10Mbps/半二重

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

第4章 インタフェース設定

. Ethernet I/F

詳細設定



「編集」をクリックすると、下記の画面が表示されます。

ethernet1 > 詳細設定	
TCP MSS	使用しない
PROXY ARP	使用しない
Directed Broadcast	使用しない
ICMP Redirects	使用する
ICMP Mask Reply	使用しない
保存	

TCP MSS

「使用しない」 / 「使用する」 / 「自動」をプルダウンから選択します。

- ・「使用する」場合、MSS 値 (500 ~ 1460[bytes]) を設定します。
- ・IPv4 パケット内のプロトコルが、TCP の場合に有効な機能です。
- ・UDP、ICMP やその他のプロトコルでは、送信するアプリケーション側で、DF ビットを「0」にしたり、パケットサイズを小さくして送信することで対処するようにしてください。

TCP MSS

Path MTU Discovery (PMTUD) 機能によって、フラグメントなしでパケットの送信を行うことが可能になります。しかし、通信の経路上に、ブラックホールルータが存在する場合や、PMTUD 機能をサポートしない機器が存在する場合は、PMTUD 機能が適切に動作しなくなるため、MTU 超えが発生したルータ上でパケットがドロップされて、End-to-endでの通信に支障をきたすこととなります。このような場合、TCP では、MSS フィールド値を調整することによって、サイズの大きいパケットでも、フラグメントなしで転送することが可能になるため、スループットの低下を抑制することが出来ます。

PROXY ARP

「使用しない」 / 「使用する」をプルダウンから選択します。

Directed Broadcast

「使用しない」 / 「使用する」をプルダウンから選択します。

- ・「使用する」を選択すると、該当するインタフェースにおいて、Directed Broadcast の転送を許可します。

Directed Broadcast

IP アドレスのホスト部がすべて「1」の IP アドレスのことです。

(例) 192.168.0.0/24 の Directed Broadcast は、192.168.0.255 です。

ICMP Redirects

「使用しない」 / 「使用する」をプルダウンから選択します。

- ・「使用する」を選択すると、該当するインタフェースにおいて、ICMP Redirects を送出します。

ICMP Redirects

他に適切な経路があることを通知する ICMP パケットのことです。

ICMP Mask Reply

「使用しない」 / 「使用する」をプルダウンから選択します。

- ・ネットワーク監視装置によっては、LAN 内装置の監視を ICMP Address Mask の送受信によって行う場合があります。
- ・「使用する」を選択すると、該当するインタフェースにて受信した ICMP Address Mask Request (type=17) に対して、Reply(type=18) を返送し、インタフェースのサブネットマスク値を通知します。
- ・「使用しない」を選択すると、Request に対して応答しません。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

第4章 インタフェース設定

. Ethernet I/F

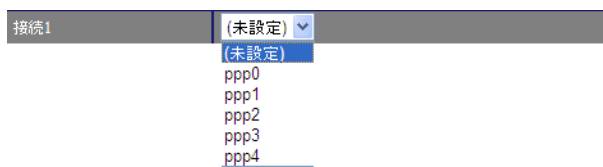
PPPoE



「編集」をクリックすると、下記の画面が表示されます。

ethernet1	PPPoE
接続1	(未設定) ▼
接続2	(未設定) ▼
接続3	(未設定) ▼
接続4	(未設定) ▼
接続5	(未設定) ▼

接続番号を選択し、プルダウンからインタフェースを選択します。



設定を保存するには、「保存」をクリックします。

PPPoE 接続の設定については、
「第4章 インタフェース設定 の .PPP/ モバイル」
を参照してください。

第4章 インタフェース設定

. Ethernet I/F

フィルタ

フィルタ 編集

「編集」をクリックします。

ステートフルパケットインスペクション(SPI)	
フィルタリング	使用しない ▼
ログ出力	使用しない ▼
出力制限(パケット数)	

IPv4フィルタ	
入力フィルタ	指定しない ▼
出力フィルタ	指定しない ▼
転送(入力時)フィルタ	指定しない ▼
転送(出力時)フィルタ	指定しない ▼

保存

[ステートフルパケットインスペクション(SPI)] フィルタリング

プルダウンから、「使用する」/「使用しない」を選択します。

フィルタリング	使用しない ▼
	使用しない
	使用する

- ・簡易ファイウォールの一つとして、SPI 機能をサポートしています。
- ・パケットに関連するコネクションの状態を見て、当該パケットをドロップ(または許可)します。

ログ出力

プルダウンから、「使用する」/「使用しない」を選択します。

ログ出力	使用しない ▼
	使用しない
	使用する

- ・パケットがSPI フィルタにマッチした場合、システムログに出力することが出来ます。
- ・フィルタリングを「使用する」場合に、選択することが出来ます。

出力制限(パケット数)

1秒当たりのログ出力数(0 ~ 100[パケット/秒])を指定することが出来ます。

- ・初期値は、10[パケット/秒]です。

出力制限(パケット数)	10
-------------	----

- ・WAN側からの意図しないパケットが、SPI フィルタに大量にマッチする可能性があるため、ログ数を増やす場合は、十分に注意してください。
- ・ログ出力を「使用する」場合に、設定することが出来ます。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

第4章 インタフェース設定

. Ethernet I/F

[IPv4 フィルタ]

入力フィルタ

プルダウンから、「指定しない」 / 「名前を指定する」を選択します。

入力フィルタ	指定しない ▼	
	指定しない	
	名前を指定する	

- ・「名前を指定する」場合は、入力フィルタの名前を指定します。

出力フィルタ

プルダウンから、「指定しない」 / 「名前を指定する」を選択します。

出力フィルタ	指定しない ▼	
	指定しない	
	名前を指定する	

- ・「名前を指定する」場合は、入力フィルタの名前を指定します。

転送（入力時）フィルタ

プルダウンから、「指定しない」 / 「名前を指定する」を選択します。

転送(入力時)フィルタ	指定しない ▼	
	指定しない	
	名前を指定する	

- ・「名前を指定する」場合は、入力フィルタの名前を指定します。

転送（出力時）フィルタ

プルダウンから、「指定しない」 / 「名前を指定する」を選択します。

転送(出力時)フィルタ	指定しない ▼	
	指定しない	
	名前を指定する	

- ・「名前を指定する」場合は、入力フィルタの名前を指定します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

フィルタの設定については、「第7章 ファイアウォール」を参照してください。

NAT

NAT	編集
-----	----

「編集」をクリックすると、下記の画面が表示されます。

ethernet1	NAT
IPv4 NAT	
マスカレード	使用しない ▼
DNAT	指定しない ▼
SNAT	指定しない ▼
保存	

[IPv4 NAT]

マスカレード

プルダウンから、マスカレードの設定（「使用しない」 / 「使用する」）を選択します。

マスカレード	使用しない ▼
	使用しない
	使用する

DNAT

プルダウンから、DNAT の設定（「指定しない」 / 「名前を指定する」）を選択します。

DNAT	名前を指定する ▼
	指定しない
	名前を指定する

- ・「名前を指定する」場合は、適用する DNAT の名前を入力します。

SNAT

プルダウンから、SNAT の設定（「指定しない」 / 「名前を指定する」）を選択します。

SNAT	指定しない ▼
	指定しない
	名前を指定する

- ・「名前を指定する」場合は、適用する SNAT の名前を入力します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

NATの設定については、「第5章 ネットワークの1.IPv4、3.NAT」を参照してください。

第4章 インタフェース設定

. PPP/モバイル

1. PPP / モバイルアカウント

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

インタフェース

PPP/ モバイル

・ PPP/ モバイルアカウント

PPP/ モバイルアカウント

インタフェース	説明	アカウント名	認証方式	編集	削除
		(未設定)			
追加					

PPP/ モバイルアカウントの追加

「追加」をクリックします。

インタフェース	ppp0 ▼
説明	
接続先	(選択して下さい) ▼
認証方式	AUTO ▼
アカウント名	(必須)
パスワード	
保存 戻る	

インタフェース

使用するインタフェースをプルダウンから選択します。

インタフェース	ppp0 ▼
	ppp0
	ppp1
	ppp2
	ppp3
	ppp4

説明

PPP/ モバイルアカウントの説明を記載します。

接続先

プルダウンから、接続先を選択します。

接続先	(選択して下さい) ▼
	(選択して下さい)
	PPPoE:ethernet0
	PPPoE:ethernet1
	PPPoE:ethernet2
	PPPoE:ethernet3
	モバイル:mobile0
	モバイル:mobile1

認証方式

認証方式をプルダウンから選択します。

認証方式	AUTO ▼
	AUTO
	CHAP
	PAP
	認証なし

アカウント名

プロバイダから指定されたアカウントを入力してください。

パスワード

プロバイダから指定された接続パスワードを入力してください。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

第4章 インタフェース設定

. PPP/モバイル

[モバイルカード設定]

接続先として「モバイル-mobile0」/「モバイル-mobile1」を選択した場合に、設定します。

モバイルカード設定	
電話番号	
APN	
CID	
PDPタイプ	IP ▼
ネットワーク設定	自動 ▼
キャリア設定	(未設定) ▼
接続時間制限	使用しない ▼
保存	戻る

電話番号

接続先電話番号を設定します。

APN

APN(Access Point Name)を設定します。

- ・モバイルネットワークのデータ通信で必要になる接続先を指定する文字列の事です。プロバイダ毎に固有の名前を設定します。

CID

CID(Context Identifier)を設定します。

PDPタイプ

プルダウンから、PDPタイプ(「IP」/「PPP」)を選択します。

ネットワーク設定

プルダウンから選択します。

ネットワーク設定	自動 ▼
	自動
	3G固定
	LTE固定
	WIMAX2+/LTE固定

- ・接続先として、「モバイル:mobile0」を選択した場合に設定することができます。

キャリア設定

プルダウンから選択します。

キャリア設定	(未設定) ▼
	(未設定)
	NTT DoCoMo
	KDDI
	KDDI(MVNO)
	SoftBank

- ・接続先として、「モバイル:mobile1」を選択した場合に設定することができます。

接続時間制限

プルダウンから、接続時間制限(「使用する」/「使用しない」)を選択します。

- ・使用するを選択した場合は、接続時間制限(30 ~ 21474836[sec])を指定します。初期値は、600[sec]です。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

第4章 インタフェース設定

. PPP/モバイル

TCP/IP

TCP/IP	編集
--------	----

「編集」をクリックします。

ppp0 > TCP/IP	
IPアドレス割当方式	自動
IPアドレス	
TCP MSS	使用しない
ICMP Redirects	使用する
ICMP Mask Reply	使用しない
保存	

IPアドレス割当方式

「自動」/「固定アドレス」をプルダウンから選択します。

IPアドレス割当方式	自動
	固定アドレス
	自動

IPアドレス

「固定アドレス」を選択した場合に、入力します。

TCP MSS

「使用する」/「使用しない」/「自動」をプルダウンから選択します。

TCP MSS	使用しない
	使用しない
	使用する
	自動

「使用する」を選択した場合、TCP MSSの値(500 ~ 1460[bytes])を設定します。

ICMP Redirects

「使用する」を選択すると、該当するインタフェースにおいて、ICMP Redirectsを送出します。

「使用する」/「使用しない」をプルダウンから選択します。

ICMP Redirects	使用する
	使用しない
	使用する

・ICMP Redirectsとは、他に適切な経路があることを通知するICMPパケットのことです。

ICMP Mask Reply

「使用する」/「使用しない」をプルダウンから選択します。

ICMP Mask Reply	使用しない
	使用しない
	使用する

・ネットワーク監視装置によっては、LAN内装置の監視をICMP Address Maskの送受信によって行う場合があります。

・「使用する」を選択すると、該当するインタフェースにて受信したICMP Address Mask Request (type=17)に対して、Reply(type=18)を返送し、インタフェースのサブネットマスク値を通知します。

・「使用しない」を選択すると、Requestに対して応答しません。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

第4章 インタフェース設定

・ PPP/モバイル

PPP

PPP	編集
-----	----

「編集」をクリックします。

ppp0 > PPP	
オンデマンド	無効 ▼
アイドルタイムアウト	有効 ▼ 180
セッション	
自動接続	有効 ▼
リトライ間隔	60
IPCP	使用する ▼
IPCPリクエスト	使用しない ▼
DNSサーバ	
設定方法	プロバイダから自動割当て ▼
プライマリサーバ	
セカンダリサーバ	
保存	戻る

オンデマンド

プルダウンから、「有効」/「無効」を選択します。

アイドルタイムアウト

プルダウンから、「無効」/「有効」を選択します。

「有効」を選択した場合は、アイドルタイムアウト (30-86400[sec]) を設定します。

「有効」の場合、アイドルタイムアウトで設定した時間内に、IP パケットの送受信が無ければ、PPP を切断します (あるいはオンデマンド状態へと遷移します)。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

[セッション]

自動接続

「有効」/「無効」をプルダウンから選択します。

自動接続	有効 ▼
	有効
	無効

リトライ間隔

30-600[秒]の間で設定します。デフォルト値は60 [秒]です。

IPCP (Internet Protocol Control Protocol)

「使用する」/「使用しない」をプルダウンから選択します。

IPCP	使用する ▼
	使用しない
	使用する

IPCP リクエスト

「使用する」/「使用しない」をプルダウンから選択します。

IPCPリクエスト	使用しない ▼
	使用しない
	使用する

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

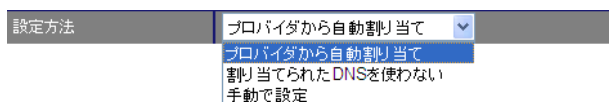
[DNSサーバ]

設定方法

特に指定のない場合は、「プロバイダから自動割り当て」を選択します。

指定されている場合は「手動で設定」を選択して、DNSサーバのIPアドレスを入力します。

プロバイダからDNSアドレスを自動割り当てされても、そのアドレスを使用しない場合は「割り当てられたDNSを使わない」を選択します。この場合は、LAN側の各ホストにDNSサーバのアドレスをそれぞれ設定しておく必要があります。



プライマリサーバ

セカンダリサーバ

「手動で設定」を選択した場合に、DNSサーバのIPアドレスを入力します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

第4章 インタフェース設定

. PPP/モバイル

インタフェース

インタフェース

「編集」をクリックします。

ppp0 > インタフェース	
MTU	1454
MRU	1454
LCPキープアライブ	
キープアライブ	使用する
送信間隔	30
送信回数	3
ICMPキープアライブ	
キープアライブ	使用しない
送信間隔	
送信回数	
宛先IPアドレス	
<input type="button" value="保存"/>	

MTU

MTUの値(128 ~ 1500[バイト])を設定します。初期値は、1454[バイト]です。

MRU

MRUの値(128 ~ 1500[バイト])を設定します。初期値は、1454[バイト]です。

[LCPキープアライブ]

キープアライブ

プルダウンから、「使用する」/「使用しない」を選択します。

キープアライブ	使用しない
	使用しない
	使用する

- ・「送信間隔」および「送信回数」は、キープアライブを「使用する」場合に、設定することが出来ます。
- ・LCPキープアライブが、(送信回数だけ)連続で失敗した場合に、PPPを切断します。

送信間隔

LCPキープアライブの送信間隔(30 ~ 600[sec])を設定します。初期値は、30[sec]です。

送信回数

LCPキープアライブの送信回数(1 ~ 10[回])を設定します。初期値は、3[回]です。

[ICMPキープアライブ]

キープアライブ

プルダウンから、「使用する」/「使用しない」を選択します。

キープアライブ	使用しない
	使用しない
	使用する

- ・「送信間隔」、「送信回数」および「宛先 IP アドレス」は、キープアライブを「使用する」場合に、設定することが出来ます。
- ・ICMPキープアライブのリトライが、(送信回数だけ)連続で失敗した場合に、PPPを切断します。

送信間隔

ICMPキープアライブの送信間隔(30 ~ 600[sec])を設定します。初期値は、30[sec]です。

送信回数

ICMPキープアライブのリトライ回数(0 ~ 10[回])を設定します。初期値は、3[回]です。

宛先 IP アドレス

ICMPキープアライブの宛先 IP アドレス(A.B.C.D)を設定します。

- ・空欄の場合は、P-t-Pゲートウェイを宛先として使用します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

第4章 インタフェース設定

. PPP/モバイル

フィルタ

フィルタ 編集

「編集」をクリックします。

ppp0 > フィルタ	
ステートフルパケットインスペクション(SPI)	
フィルタリング	使用しない ▼
ログ出力	使用しない ▼
出力制限(パケット数)	
IPv4フィルタ	
入力フィルタ	指定しない ▼
出力フィルタ	指定しない ▼
転送(入力時)フィルタ	指定しない ▼
転送(出力時)フィルタ	指定しない ▼
保存	

【ステートフルパケットインスペクション(SPI) フィルタリング】
プルダウンから、「使用する」/「使用しない」を選択します。

フィルタリング	使用しない ▼
	使用しない
	使用する

- ・簡易ファイアウォールの一つとして、SPI 機能をサポートしています。
- ・パケットに関連する接続の状態を見て、当該パケットをドロップ(または許可)します。

ログ出力
プルダウンから、「使用する」/「使用しない」を選択します。

ログ出力	使用しない ▼
	使用しない
	使用する

- ・パケットがSPI フィルタにマッチした場合、システムログに出力することが出来ます。
- ・フィルタリングを「使用する」場合に、選択することが出来ます。

出力制限(パケット数)
1秒当たりのログ出力数(0 ~ 100[パケット/秒])を指定することが出来ます。初期値は、10[パケット/秒]です。

出力制限(パケット数)	10
-------------	----

- ・WAN 側からの意図しないパケットが、SPI フィルタに大量にマッチする可能性があるため、ログ数を増やす場合は、十分に注意してください。
- ・ログ出力を「使用する」場合に、設定することが出来ます。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

第4章 インタフェース設定

. PPP/モバイル

[IPv4 フィルタ]

入力フィルタ

プルダウンから、「指定しない」/「名前を指定する」を選択します。

入力フィルタ	指定しない ▼	
	指定しない	
	名前を指定する	

- ・「名前を指定する」場合は、入力フィルタの名前を指定します。

出力フィルタ

プルダウンから、「指定しない」/「名前を指定する」を選択します。

出力フィルタ	指定しない ▼	
	指定しない	
	名前を指定する	

- ・「名前を指定する」場合は、入力フィルタの名前を指定します。

転送（入力時）フィルタ

プルダウンから、「指定しない」/「名前を指定する」を選択します。

転送(入力時)フィルタ	指定しない ▼	
	指定しない	
	名前を指定する	

- ・「名前を指定する」場合は、入力フィルタの名前を指定します。

転送（出力時）フィルタ

プルダウンから、「指定しない」/「名前を指定する」を選択します。

転送(出力時)フィルタ	指定しない ▼	
	指定しない	
	名前を指定する	

- ・「名前を指定する」場合は、入力フィルタの名前を指定します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

NAT

NAT	編集
-----	----

「編集」をクリックします。

ppp0	NAT
IPv4 NAT	
マスカレード	使用しない ▼
DNAT	指定しない ▼
SNAT	指定しない ▼
保存	

マスカレード

プルダウンから、「使用する」「使用しない」を選択します。

マスカレード	使用する ▼	
	使用しない	
	使用する	

DNAT

プルダウンから、「名前を指定する」「指定しない」を選択します。

DNAT	名前を指定する ▼ (必須)	
	指定しない	
	名前を指定する	

「名前を指定する」を選択した場合は、適用するDNATの名前を入力します。

DNAT	名前を指定する ▼	dnat
------	-----------	------

SNAT

プルダウンから、「名前を指定する」「指定しない」を選択します。

SNAT	名前を指定する ▼ (必須)	
	指定しない	
	名前を指定する	

「名前を指定する」を選択した場合は、SNATの名前を入力します。

SNAT	名前を指定する ▼	snat
------	-----------	------

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

第4章 インタフェース設定

. PPP/モバイル

PPPアカウントの編集

インタフェース	説明	アカウント名	認証方式	編集	削除
ppp0		aaa	auto	編集	削除

PPPアカウントを編集するには「編集」をクリックします。

ppp0	
説明	<input type="text"/>
接続先	モバイル-mobile0 ▼
認証方式	AUTO ▼
アカウント名	aaa <input type="text"/>
パスワード	*** <input type="password"/>
モバイルカード設定	
電話番号	09012342222 <input type="text"/>
APN	mobile.ne.jp <input type="text"/>
CID	1 <input type="text"/>
PDPタイプ	IP ▼
TCP/IP	編集
PPP	編集
インタフェース	編集
フィルタ	編集
NAT	編集
保存	

各項目については、[PPPアカウントの追加](#)を参照してください。

PPPアカウントの削除

インタフェース	サービス名	アカウント名	認証方式	編集	削除
ppp0		userid	chap	編集	削除

PPPアカウントを削除するには「削除」をクリックします。

第4章 インタフェース設定

・ PPP/モバイル

2. PPPoE

地域 IP 網での工事や不具合、また ADSL 回線の不安定な状態によって、正常に PPPoE 接続が行えなくなる場合があります。

これはユーザー側が PPPoE セッションが確立していないことを検知していても、地域 IP 網側はそれを検知していないために、ユーザー側からの新規接続要求を受け入れることができない状態になっていることが原因です。

ここで PPPoE 特殊オプション機能を使うことにより、本装置が PPPoE セッションを確立していないことを検知し、強制的に PADT パケットを地域 IP 網側へ送信して、地域 IP 網側に PPPoE セッションの終了を通知します。

本装置から PADT パケットを送信することで、地域 IP 網側の PPPoE セッション情報がクリアされ、PPPoE の再接続性を高めることができます。

PADT = PPPoE Active Discovery Terminate の略。PPPoE セッションが終了したことを示すパケットです。これにより、PADT を受信した側で該当する PPPoE セッションを終了させます。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。
インタフェース
PPP I/F
・ PPPoE

PPPoE

PADT強制送出	
前セッションPADT	有効
Unknwon IPv4 Packet	有効
Unknwon LCP-Echo Request	有効

【PADT 強制送出】

前セッション PADT
回線接続時に前回の PPPoE セッションの PADT を強制送出します。
「有効」 / 「無効」をプルダウンから選択します。

前セッションPADT	有効
	無効
	有効

Unknwon IPv4 Packet
非接続セッションの IPv4 パケット受信時に PADT を強制送出します。
「有効」 / 「無効」をプルダウンから選択します。

Unknwon IPv4 Packet	有効
	無効
	有効

Unknwon LCP-Echo Request
非接続セッションの LCP echo request 受信時に PADT を強制送出します。
「有効」 / 「無効」をプルダウンから選択します。

Unknwon LCP-Echo Request	有効
	無効
	有効

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

地域 IP 網の工事後に PPPoE 接続が出来なくなってしまう事象を回避するためにも、PPPoE 特殊オプション機能を有効にした上で PPPoE 接続をしていただくことを推奨します。

第4章 インタフェース設定

. PPP/モバイル

3. モバイル設定

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

インタフェース

PPP/モバイル

・モバイル設定

モバイル設定

エラーリカバリー	使用しない	▼
網切断リカバリー	使用しない	▼
システムクロック	使用しない	▼
保存		

エラーリカバリー

プルダウンから、「使用しない」/「モバイルリセット」/「再起動」を選択します。

エラーリカバリー	使用しない	▼
	使用しない	
	モバイルリセット	
	再起動	

- ・モバイル端末との通信に重大な問題が発生する可能性が高いと判断した場合に、モバイルリセット、または再起動（システム再起動）を実行します。
- ・「使用しない」場合は、何も実行しません。

網切断リカバリー

プルダウンから、「使用しない」/「モバイルリセット」/「再起動」を選択します。

網切断リカバリー	使用しない	▼
	使用しない	
	モバイルリセット	
	再起動	

- ・モバイルモジュールによるPPP接続時、網側から切断された場合に、モバイルリセット、または再起動（システム再起動）を実行します。
- ・「使用しない」場合は、何も実行しません。

システムクロック（ NXR-G2XX/Lのみ）

プルダウンから、「使用しない」/「mobile 1」を選択します。

システムクロック	使用しない	▼
	使用しない	
	mobile1	

- ・「mobile 1」を選択した場合、LTE通信モジュールが、網側から取得した時刻情報を、NXRのシステムクロックに反映します。
- ・NTPサーバを設定した場合は、「mobile 1」を指定することは出来ません。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

第4章 インタフェース設定

. WiFi

1. WiFi 設定

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

インタフェース

WiFi

・WiFi 設定

WiFi 設定

WiFi	WiFiモード	インタフェース	説明	SSID	状態	編集	削除	更新
(未設定)								
追加								
戻る								

設定を追加するには、「追加」をクリックします。

設定の追加	
インタフェース	wlan0 ▼
説明	
SSID	(必須)
IPアドレス	
MTU	1500
認証設定(WPA2-PSK/AES)	
パスフレーズ	
WPS	使用しない ▼
WiFi設定	
WiFi	wifi0 ▼
WiFiモード	IEEE802.11a ▼
デュアルチャンネル	使用しない ▼
クワッドチャンネル	使用しない ▼
ガードインターバル	800ns ▼
チャンネル	自動 ▼
送信出力	13
保存	戻る

インタフェース

プルダウンからインタフェースを選択します。

説明

インタフェースの説明を記載します。

SSID

SSIDを設定します。

1-32文字の文字列を指定します。

IPアドレス

インタフェースにIPアドレス(A.B.C.D/M)を設定します。

MTU

MTUの値(68-1500)を設定します。

【認証設定 (WPA2-PSK/AES)】

パスフレーズ

パスフレーズ(認証方式WPA2-PSK、暗号化方式AES)を設定します。

WPS

プルダウンから、「使用する」/「使用しない」を選択します。

・「使用する」を選択すると、WPSボタンが有効になります。

【WiFi 設定】

WiFi

wlan0-7を指定した場合は、wifi0に割り当てられます。

wlan16-23を指定した場合は、wifi1に割り当てられます。

WiFiモード

プルダウンから、WiFiモードを選択します。

・wifi0の場合、11a/11na/11acを選択することが出来ます。

・wifi1の場合、11b/11g/11ngを選択することが出来ます。

デュアルチャンネル

プルダウンから、「使用しない」/「上位チャンネル」/「下位チャンネル」を選択します。

クワッドチャンネル

プルダウンから、「使用する」/「使用しない」を選択します。

・WiFiモードが「11ng」の場合に、設定することが出来ます。

・デュアルチャンネルが「使用しない」場合に、設定することが出来ます。

ガードインターバル

プルダウンから、選択します。

第4章 インタフェース設定

. WiFi

チャンネル

WiFi モードが、11b/11g/11ng の場合、自動 (1/6/11) 自動 (2/7/12) 自動 (3/8/13) を選択することが出来ます。

WiFi モードが、11a/11na/11ac の場合、自動 (W52) 自動 (W53) 自動 (W56) を選択することが出来ます。

送信出力

送信出力を設定することが出来ます。

初期値は、13 です。

- wifi0 の場合、1-20
- wifi1 の場合、1-19

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

WiFi 設定の編集

WiFi	WiFiモード	インタフェース	説明	SSID	状態	編集	削除
wifi0	11a	wlan0		test1	● 表示	編集	削除

WiFi 設定を編集するには「編集」をクリックします。

WiFi 設定の削除

WiFi	WiFiモード	インタフェース	説明	SSID	状態	編集	削除
wifi0	11a	wlan0		test1	● 表示	編集	削除

WiFi 設定を削除するには「削除」をクリックします。

第5章

ネットワーク

1. スタティックルート

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

ネットワーク

IPv4

・スタティックルート

スタティックルート

宛先ネットワーク	インタフェース	ゲートウェイ	ディスタンス	編集	削除
(未設定)					
追加					

スタティックルートの追加

「追加」をクリックします。

宛先ネットワーク	<input type="text"/>
インタフェース	指定しない ▼
ゲートウェイ	<input type="text"/>
ディスタンス	<input type="text"/>

宛先ネットワーク

ネットワークアドレス / マスクビット値の形式で入力してください。

[入力例] 192.168.100.0/24
192.168.200.254/32

インタフェース

プルダウンからインタフェースを選択します。

インタフェース	指定しない ▼
	指定しない
	ethernet0
	ethernet1
	ethernet2
	ppp0
	ppp1
	ppp2
	ppp3
	ppp4
	null
	tunnel

VLAN インタフェースを指定する場合は、該当する ethernet インタフェースを選択し、VLAN ID を入力してください。VLAN ID は、1-4094 の間で設定します。

インタフェース	ethernet0 ▼	VLAN ID <input type="text"/>
---------	-------------	------------------------------

ゲートウェイ

インタフェースを「指定しない」に選択した場合、上位ルータの IP アドレスを入力します。

ディスタンス

経路選択の優先順位を指定します。1-255 の間で指定します。値が小さいほど優先度が高くなります。**スタティックルートのデフォルトディスタンス値は1です。**

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

スタティックルートの編集

「編集」をクリックします。

宛先ネットワーク	インタフェース	ゲートウェイ	ディスタンス	編集	削除
10.0.0.0/8		192.168.1.1		編集	削除

スタティックルートの削除

「削除」をクリックします。

宛先ネットワーク	インタフェース	ゲートウェイ	ディスタンス	編集	削除
10.0.0.0/8		192.168.1.1		編集	削除

2. 固定 ARP

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。

ネットワーク

IPv4

・固定 ARP

固定 ARP

IPアドレス	MACアドレス	編集	削除
(未設定)			
追加			

固定 ARP の追加

「追加」をクリックします。

IPアドレス	<input type="text"/>
MACアドレス	<input type="text"/>

IP アドレス

[入力例] 192.168.0.1

MAC アドレス

[入力例] 00:11:22:33:44:55

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

固定 ARP の編集

「編集」をクリックします。

IPアドレス	MACアドレス	編集	削除
192.168.0.1	00:11:22:33:44:55	編集	削除

固定 ARP の削除

「削除」をクリックします。

IPアドレス	MACアドレス	編集	削除
192.168.0.1	00:11:22:33:44:55	編集	削除

第5章 ネットワーク

1. IPv4

3. NAT

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

ネットワーク

IPv4

・ NAT

NAT

- インタフェース			
インタフェース	DNAT	SNAT	編集
ethernet0			編集
ethernet1			編集
ethernet2			編集
ethernet3			編集

- DNAT							
名前	変換モード	プロトコル	送信元アドレス 宛先アドレス	送信元ポート 宛先ポート	変換後アドレス	変換後ポート	編集 削除
(未設定)							
追加							

- SNAT							
名前	変換モード	プロトコル	送信元アドレス 宛先アドレス	送信元ポート 宛先ポート	変換後アドレス	変換後ポート	編集 削除
(未設定)							
追加							

インタフェース

- インタフェース			
インタフェース	DNAT	SNAT	編集
ethernet0			編集
ethernet1			編集
ppp0			編集

インタフェースの編集

当該インタフェースの「編集」をクリックします。

ethernet0		NAT	
IPv4 NAT			
マスカレード	使用しない ▼		
DNAT	指定しない ▼		
SNAT	指定しない ▼		
保存			

マスカレード

プルダウンから、「使用する」「使用しない」を選択します。

マスカレード	使用する ▼
	使用しない
	使用する

DNAT

プルダウンから、「名前を指定する」「指定しない」を選択します。

DNAT	名前を指定する ▼	(必須)
	指定しない	
	名前を指定する	

「名前を指定する」を選択した場合は、適用するDNATの名前を入力します。

DNAT	名前を指定する ▼	dnat
------	-----------	------

SNAT

プルダウンから、「名前を指定する」「指定しない」を選択します。

SNAT	名前を指定する ▼	(必須)
	指定しない	
	名前を指定する	

「名前を指定する」を選択した場合は、SNATの名前を入力します。

SNAT	名前を指定する ▼	snat
------	-----------	------

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

第5章 ネットワーク

1. IPv4

DNAT

- DNAT							
名前	変換モード	プロトコル	送信元アドレス 宛先アドレス	送信元ポート 宛先ポート	変換後アドレス	変換後ポート	編集 削除
(未設定)							
追加							

DNATの追加

「追加」をクリックします。

DNAT	
名前	(必須)
変換モード	ダイナミックNAT ▼
プロトコル	IP ▼
送信元アドレス	
送信元アドレス	
開始ポート	
終了ポート	
宛先アドレス	
宛先アドレス	
開始ポート	
終了ポート	
スタティックNAT	
変換後アドレス	
ダイナミックNAT	
開始アドレス	(必須)
終了アドレス	
開始ポート	
終了ポート	
保存	

[DNAT]

名前

DNATの名前を入力します(DNAT に名前を付けます)。

変換モード

プルダウンから、「ダイナミック NAT」「スタティック NAT」を選択します。

変換モード	ダイナミックNAT ▼ ダイナミックNAT スタティックNAT
-------	---------------------------------------

プロトコル

プルダウンから、プロトコルを選択します。

「数値指定」を選択した場合は、プロトコル番号(0-255)を指定します。

プロトコル	IP ▼ IP TCP UDP 数値指定
-------	----------------------------------

[送信元アドレス]

送信元アドレス

以下の形式で、送信元アドレスを入力します。

A.B.C.D : ホストアドレス
A.B.C.D/M : ネットワークアドレス
空欄 : any

開始ポート

変換モードで「ダイナミック NAT」、プロトコルで、「TCP」/「UDP」を選択した場合に、開始ポート番号(1-65535)を指定することが出来ます。
空欄の場合、ポート番号は、「any」になります。

終了ポート

変換モードで「ダイナミック NAT」、プロトコルで、「TCP」/「UDP」を選択した場合に、終了ポート番号(1-65535)を指定することが出来ます。
ただし、開始ポート < 終了ポートとなるように設定して下さい。

第5章 ネットワーク

1. IPv4

[宛先アドレス]

宛先アドレス

以下の形式で、宛先アドレスを入力します。

A.B.C.D : ホストアドレス
A.B.C.D/M : ネットワークアドレス
空欄 : any

開始ポート

変換モードで「ダイナミック NAT」、プロトコルで、「TCP」/「UDP」を選択した場合に、開始ポート番号(1-65535)を指定することができます。
空欄の場合、ポート番号は、「any」になります。

終了ポート

変換モードで「ダイナミック NAT」、プロトコルで、「TCP」/「UDP」を選択した場合に、終了ポート番号(1-65535)を指定することができます。
ただし、開始ポート < 終了ポートとなるように設定して下さい。

[スタティック NAT]

変換モードで、「スタティック NAT」を選択した場合に設定します。

変換後アドレス

以下の形式で、変換後アドレスを入力します。

A.B.C.D/M

[ダイナミック NAT]

変換モードで、「ダイナミック NAT」を選択した場合に設定します。

開始アドレス

以下の形式で、開始アドレスを入力します。

A.B.C.D

終了アドレス

以下の形式で、開始アドレスを入力します。

A.B.C.D

開始ポート

変換モードで「ダイナミック NAT」、プロトコルで、「TCP」/「UDP」を選択した場合に、開始ポート番号(1-65535)を指定することができます。

終了ポート

変換モードで「ダイナミック NAT」、プロトコルで、「TCP」/「UDP」を選択した場合に、終了ポート番号(1-65535)を指定することができます。
ただし、開始ポート < 終了ポートとなるように設定して下さい。

設定を保存するには、「保存」をクリックします

DNAT の編集

当該項目の「編集」をクリックします。

DNAT							
名前	変換モード	プロトコル	送信元アドレス 宛先アドレス	送信元ポート 宛先ポート	変換後アドレス	変換後ポート	編集 削除
aaa	ダイナミックNAT	や	1.1.1.1				編集
削除			2.2.2.2		3.3.3.3		削除
追加							

DNAT の削除

当該項目の「削除」をクリックします。

第5章 ネットワーク

1. IPv4

SNAT

SNAT							
名前	変換モード	プロトコル	送信元アドレス	送信元ポート	変換後アドレス	変換後ポート	編集 削除
			宛先アドレス	宛先ポート			
(未設定)							
追加							

SNATの追加

「追加」をクリックします。

SNAT	
名前	(必須)
変換モード	ダイナミックNAT ▼
プロトコル	IP ▼
送信元アドレス	
送信元アドレス	
開始ポート	
終了ポート	
宛先アドレス	
宛先アドレス	
開始ポート	
終了ポート	
スタティックNAT	
変換後アドレス	
ダイナミックNAT	
開始アドレス	(必須)
終了アドレス	
開始ポート	
終了ポート	
保存	

[SNAT]

名前

SNATの名前を入力します (SNATに名前を付けます)。

変換モード

プルダウンから、「ダイナミックNAT」「スタティックNAT」を選択します。

変換モード	ダイナミックNAT ▼ ダイナミックNAT スタティックNAT
-------	---------------------------------------

プロトコル

プルダウンから、プロトコルを選択します。「数値指定」を選択した場合は、プロトコル番号 (0-255) を指定します。

プロトコル	IP ▼ IP TCP UDP 数値指定
-------	----------------------------------

[送信元アドレス]

送信元アドレス

以下の形式で、送信元アドレスを入力します。

- A.B.C.D : ホストアドレス
- A.B.C.D/M : ネットワークアドレス
- 空欄 : any

開始ポート

変換モードで「ダイナミックNAT」、プロトコルで、「TCP」/「UDP」を選択した場合に、開始ポート番号 (1-65535) を指定することが出来ます。空欄の場合、ポート番号は、「any」になります。

終了ポート

変換モードで「ダイナミックNAT」、プロトコルで、「TCP」/「UDP」を選択した場合に、終了ポート番号 (1-65535) を指定することが出来ます。ただし、開始ポート < 終了ポートとなるように設定して下さい。

第5章 ネットワーク

1. IPv4

[宛先アドレス]

宛先アドレス

以下の形式で、宛先アドレスを入力します。

A.B.C.D : ホストアドレス

A.B.C.D/M : ネットワークアドレス

空欄 : any

開始ポート

変換モードで「ダイナミック NAT」、プロトコルで、「TCP」/「UDP」を選択した場合に、開始ポート番号(1-65535)を指定することができます。

空欄の場合、ポート番号は、「any」になります。

終了ポート

変換モードで「ダイナミック NAT」、プロトコルで、「TCP」/「UDP」を選択した場合に、終了ポート番号(1-65535)を指定することができます。

ただし、開始ポート < 終了ポートとなるように設定して下さい。

[スタティック NAT]

変換モードで、「スタティック NAT」を選択した場合に設定します。

変換後アドレス

以下の形式で、変換後アドレスを入力します。

A.B.C.D/M

[ダイナミック NAT]

変換モードで、「ダイナミック NAT」を選択した場合に設定します。

開始アドレス

以下の形式で、開始アドレスを入力します。

A.B.C.D

終了アドレス

以下の形式で、開始アドレスを入力します。

A.B.C.D

開始ポート

変換モードで「ダイナミック NAT」、プロトコルで、「TCP」/「UDP」を選択した場合に、開始ポート番号(1-65535)を指定することができます。

終了ポート

変換モードで「ダイナミック NAT」、プロトコルで、「TCP」/「UDP」を選択した場合に、終了ポート番号(1-65535)を指定することができます。

ただし、開始ポート < 終了ポートとなるように設定して下さい。

設定を保存するには、「保存」をクリックします

SNATの編集

当該項目の「編集」をクリックします。

- SNAT							
名前	変換モード	プロトコル	送信元アドレス	送信元ポート	変換後アドレス	変換後ポート	編集
			宛先アドレス	宛先ポート			削除
bbb	スタティックNAT	ip	1.1.1.1		3333/24		編集
			2222				削除
追加							

SNATの削除

当該項目の「削除」をクリックします。

1. DHCP ネットワーク

DHCP サーバ機能の設定をおこないます。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。

ネットワーク

DHCP

・ DHCP ネットワーク

DHCP ネットワーク

ネットワーク	サブネット	リースアドレス	標準リース時間	編集	削除
(未設定)					
<input type="button" value="追加"/>					

DHCP ネットワークの追加

「追加」をクリックすると、下記の画面が表示されます。

ネットワーク	No. 1			
サブネット				
標準リース時間	21600			
最大リース時間	43200			
<input type="button" value="保存"/>				

ネットワーク

ネットワーク番号をプルダウンから選択します。

ネットワーク	No. 1
	No. 1
	No. 2
	No. 3
	No. 4
	No. 5

サブネット

DHCP サーバを動作させるネットワーク空間のアドレスを設定します。

[入力例] 172.16.0.0/16

標準リース時間

DHCP クライアントに IP アドレスを割り当てる時間を指定します。

60-15552000[秒]の間で指定します。デフォルト値は 21600[秒]です。

最大リース時間

DHCP クライアントが割り当て時間を要求した時の最大割り当て時間を指定します。指定した値以上のリース時間を要求された場合、リース時間は指定値で設定されます。

60-15552000[秒]の間で指定します。デフォルト値は 43200[秒]です。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

リースアドレスの追加

リースアドレスを追加するには、DHCP ネットワークの画面で、「編集」をクリックします。

ネットワーク	サブネット	リースアドレス	標準リース時間	編集	削除
1	172.16.0.0/16		21600	編集	削除

追加

下記の画面が表示されます。

ネットワーク	1
サブネット	172.16.0.0/16
リースアドレス	<input type="button" value="非表示"/> (未設定)
	<input type="button" value="追加"/>
標準リース時間	21600
最大リース時間	43200
オプション	<input type="button" value="編集"/>
<input type="button" value="保存"/>	

リースアドレス

「追加」をクリックします。

リースアドレス	<input type="button" value="非表示"/> (未設定)
	<input type="button" value="追加"/>

下記の画面が表示されます。

ネットワーク	1
サブネット	172.16.0.0/16
リース開始アドレス	<input type="text"/>
リース終了アドレス	<input type="text"/>
<input type="button" value="保存"/>	

リース開始アドレス

リース開始アドレスを指定します。

[入力例] 172.16.0.1

リース終了アドレス

リース終了アドレスを指定します。

[入力例] 172.16.10.254

- ・DHCP クライアントに割り当てる最初と最後の IP アドレスを指定します。両項目で設定した範囲の IP アドレスが、DHCP クライアントに割り当てられます。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

リースアドレスの編集

リースアドレスを編集するには、下記の画面で「編集」をクリックします。

ネットワーク	1
サブネット	172.16.0.0/16
リースアドレス	<input type="button" value="非表示"/> 172.16.0.1 - 172.16.10.254 <input type="button" value="編集"/> <input type="button" value="削除"/>
	<input type="button" value="追加"/>
標準リース時間	21600
最大リース時間	43200
オプション	<input type="button" value="編集"/>
<input type="button" value="保存"/>	

リースアドレスの削除

リースアドレスを削除するには、「削除」をクリックします。

リースアドレスの追加

DHCP ネットワークの一つのサブネット内に、複数のリースアドレスを設定することができます。リースアドレスは、最大で 16 個設定することができます。

リースアドレスを追加するには、「追加」をクリックします。

標準リース時間

IP アドレスの標準リース時間を設定します。

最大リース時間

IP アドレスの最大リース時間を設定します。

オプションの編集

オプションの設定 / 編集をするには、オプションの「編集」をクリックします。

ネットワーク	1
サブネット	172.16.0.0/16
リースアドレス	<input type="button" value="非表示"/> 172.16.0.1 - 172.16.10.254 <input type="button" value="編集"/> <input type="button" value="削除"/> <input type="button" value="追加"/>
標準リース時間	21600
最大リース時間	43200
オプション	<input type="button" value="編集"/>
<input type="button" value="保存"/>	

下記の画面が表示されます。

ゲートウェイ	<input type="text"/>
ドメイン	<input type="text"/>
プライマリDNSサーバ	<input type="text"/>
セカンダリDNSサーバ	<input type="text"/>
プライマリWINSサーバ	<input type="text"/>
セカンダリWINSサーバ	<input type="text"/>
スコープID	<input type="text"/>
プライマリSIPサーバ	<input type="text"/>
セカンダリSIPサーバ	<input type="text"/>
<input type="button" value="保存"/>	

オプション

ゲートウェイ

DHCPクライアントのデフォルトゲートウェイとなるアドレスを入力してください。通常は、本装置のインタフェースのIPアドレスを指定します。

ドメイン

DHCPクライアントに割り当てるドメイン名を指定します（任意で指定）。

プライマリDNSサーバ

セカンダリDNSサーバ

DHCPクライアントに割り当てるDNSサーバアドレスを指定します（任意で指定）。

プライマリWINSサーバ

セカンダリWINSサーバ

DHCPクライアントに割り当てるWINSサーバのIPアドレスを指定します。

スコープID

NetBIOS スコープID を配布できます。

TCP/IP を介してNetBIOS を実行しているコンピュータでは、同じNetBIOS スコープID を使用するほかのコンピュータとのみNetBIOS 情報を交換することができます。

プライマリSIPサーバ / セカンダリSIPサーバDHCPクライアントからのSIPサーバ要求に対して、SIPサーバアドレスを割り当てます。

指定可能なアドレスは、IPv4アドレスまたはFQDNで、最大2つまで設定することができます。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

2. DHCP ホスト

DHCP サーバ機能で、固定 IP アドレスを割り当てる場合の設定をおこないます。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。

- ネットワーク
- DHCP
 - ・ DHCP ホスト

DHCP ホスト

MACアドレス	IPアドレス	編集	削除
(未設定)			
<input type="button" value="追加"/>			

DHCP ホストの追加

「追加」をクリックします。

MACアドレス	<input type="text"/>
IPアドレス	<input type="text"/>
<input type="button" value="保存"/>	

MAC アドレス

PC に装着されている LAN ボードなどの MAC アドレスを入力します。

[入力例] 00:11:22:33:ff:ff

IP アドレス

割り当てる IP アドレスを指定します。

[入力例] 172.16.0.200

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

DHCP ホストの編集

「編集」をクリックします。

MACアドレス	IPアドレス	編集	削除
00:11:22:33:FF:FF	172.16.0.200	<input type="button" value="編集"/>	<input type="button" value="削除"/>
<input type="button" value="追加"/>			

DHCP ホストの削除

「削除」をクリックします。

DHCP サーバ機能で、固定 IP アドレスを割り当てる場合でも、DHCP ネットワーク設定は必要です。その場合は、「DHCP サーバ設定」画面の「リース開始アドレス」「リース終了アドレス」に、「DHCP ホスト」で指定したアドレス範囲の先頭と末尾の IP アドレスを指定してください。

3. DHCP リレー

DHCP サーバと DHCP クライアントは、通常同じネットワークにないと通信できません。しかし、DHCP リレー機能を使うことで、異なるネットワークにある DHCP サーバを利用できるようになります。(本装置が、DHCP クライアントからの要求と DHCP サーバからの応答を中継します。)

NAT 機能を使用している場合は、DHCP リレー機能は使用できません。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。

- ネットワーク
- DHCP
 - ・ DHCP リレー

DHCP リレー

DHCPサーバアドレス	<input type="text"/>
DHCP受信インタフェース	指定しない ▼
DHCP受信インタフェース	指定しない ▼
DHCP受信インタフェース	指定しない ▼
DHCP受信インタフェース	指定しない ▼
<input type="button" value="保存"/> <input type="button" value="戻る"/>	

DHCP サーバアドレス

上位の DHCP サーバの IP アドレスを指定します。

DHCP 受信インタフェース

DHCP サーバ機能と同時に運用する場合を考慮して、クライアントからの BOOTP Request パケットを受信するインタフェースを指定することができます。

DHCP受信インタフェース	指定しない ▼
	指定しない
	ethernet0
	ethernet1
	ethernet2
	ethernet3

プルダウンから、該当するインタフェース(または「指定しない」)を選択します。

指定したインタフェース以外で受信した BOOTP Request はドロップされます。

指定しない場合は、どのインタフェースで BOOTP Request パケットを受信してもリレーされます。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

DNS

LAN内の各ホストのDNSサーバ設定に本装置のIPアドレスを指定することによって、ISPから指定されたDNSサーバや任意のDNSサーバへリレーすることができます。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
ネットワーク

・DNS

DNS

起動/停止	起動
タイムアウト	30
ルートDNS転送	無効
DNSサーバ	
サーバアドレス	
サーバアドレス	
サーバアドレス	
サーバアドレス	
プライオリティ	
ユーザ	20
ppp0	20
ppp1	20
ppp2	20
ppp3	20
ppp4	20
DHCPクライアント	20
DHCPv6クライアント	20
保存	

起動 / 停止

サービスの「起動」/「停止」をプルダウンから選択します。

起動/停止	起動
	停止
	起動
	無効

タイムアウト

DNSサーバへの問い合わせが無応答の場合のタイムアウトを設定します。

5-30[秒]で設定できます。初期設定は30秒です。使用環境によっては、DNSキャッシュのタイムアウトよりもブラウザなどのアプリケーションのタイムアウトが早く発生する場合があります。この場合は、DNSキャッシュのタイムアウトを調整してください。

ルートDNS転送

設定したDNSサーバへの問い合わせに失敗した場合や、DNSサーバの指定が無い場合に、ルートサーバへ問い合わせをするかどうかを設定します。プルダウンから「有効」/「無効」を選択します。

ルートDNS転送	無効
	無効
	有効

[DNSサーバ]

サーバアドレス

任意のDNSサーバのIPアドレス(A.B.C.D)を入力してください。

PPPoE接続時、ISPから指定されたDNSサーバへリレーする場合は本設定の必要はありません。

[プライオリティ]

ユーザ

ppp0/ppp1/ppp2/ppp3/ppp4

DHCPクライアント

DHCPv6クライアント

DNSサーバのプライオリティ(1~20)を設定します。デフォルト値は20です。

同一プライオリティの場合の優先順位は、下記のとおりです。

ユーザ > ppp4 > ppp3 > ppp2 > ppp1 > ppp0 > DHCP > DHCPv6

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

第5章 ネットワーク

. WarpLink

WarpLink

WarpLinkサービスのクライアントとして動作します (WarpLink Manager に対して、本装置の機器情報を HTTPS で送信します)。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。
ネットワーク

・WarpLink

WarpLink

起動/停止	停止 ▼
ユーザ名	<input type="text"/>
パスワード	<input type="password"/>
Syslog情報送信	無効 ▼
統計情報インタフェース	指定しない ▼
統計情報インタフェース	指定しない ▼
保存	戻る

起動 / 停止

サービスの「起動」/「停止」をプルダウンから選択します。デフォルトは「停止」です。

起動/停止	停止 ▼
	停止
	起動

- ・「起動」を選択すると、ダイナミック DNS が有効になり、本装置の WAN 側 IP アドレスを定期的 (5 分間隔) に送信します。

ユーザ名

WarpLinkサービスのユーザ ID を入力します。

パスワード

WarpLinkサービスのパスワードを入力します。

Syslog 情報送信

Syslog 情報送信の「有効」/「無効」をプルダウンから選択します。デフォルトは「無効」です。

Syslog情報送信	無効 ▼
	無効
	有効

- ・「有効」を選択すると、本装置の syslog 情報を定期的 (5 分間隔) に送信します。
- ・サービスが停止 (ダイナミック DNS が無効) の場合は、syslog 情報は送信されません。
- ・syslog 情報は、前回からの差分を最大 100 キロバイト まで送信します。

統計情報インタフェース

統計情報インタフェースをプルダウンで指定します。デフォルトは「指定しない」です。

統計情報インタフェース	指定しない ▼
	指定しない
	ethernet0
	ethernet1
	wimax0
	ppp0
	ppp1
	ppp2
	ppp3
	ppp4
	null
	tunnel

- ・インタフェースを指定すると、本装置の CPU 使用率、メモリ使用率および当該インタフェースのトラフィック量を定期的 (5 分間隔) に送信します。
- ・サービスが停止 (ダイナミック DNS が無効) の場合は、統計情報は送信されません。
- ・統計情報は、30 秒間隔で取得したデータの 3 分間の平均を 3 日分保持します。
- ・インタフェースは、2 つまで指定することができます。未指定の場合、統計情報は送信されません。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

NTP

本装置は、NTPサーバ/クライアント機能を持っています。インターネットを使った時刻同期手法の一つであるNTP(Network Time Protocol)を用いてNTPサーバと通信を行い、時刻を同期させることができます。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
ネットワーク

- ・NTP

NTP

起動/停止	停止 ▼
同期タイムアウト	30
ローカルタイムサーバ	使用する ▼
階層[stratum]	10
プライマリ	
アドレス	
(ポーリング最小値)	6
(ポーリング最大値)	10
セカンダリ	
アドレス	
(ポーリング最小値)	6
(ポーリング最大値)	10
保存	戻る

起動 / 停止

サービスの「起動」/「停止」をプルダウンから選択します。

起動/停止	起動 ▼
	停止
	起動

同期タイムアウト

サーバ応答の最大待ち時間を1-30[秒]の間で設定できます。

ローカルタイムサーバ

ローカルタイムサーバを「使用する」/「使用しない」をプルダウンから選択します。

ローカルタイムサーバ	使用する ▼
	使用しない
	使用する

階層[stratum]

本装置をローカルサーバとして設定した場合のstratum level (1 ~ 15) を指定します。初期値は、「10」です。

[プライマリ]

アドレス

NTPサーバのIPアドレスを入力します。

NTPサーバのIPアドレスを入力しない場合は、本装置はNTPサーバとしてのみ動作します。

(ポーリング最小値)

4-16の間で指定します。デフォルト値は6です。

(ポーリング最大値)

5-17の間で指定します。デフォルト値は10です。

「(ポーリング最小値)」「(ポーリング最大値)」によって、NTPサーバと通信をおこなう間隔を設定します。

サーバとの接続状態により、指定した最小値と最大値の範囲でポーリングの間隔を調整します。

Polling 間隔 X(sec) を指定した場合、秒単位での間隔は2 の X 乗(秒)となります。

< 例 4 : 16 秒、 6 : 64 秒、... 10 : 1024 秒 >

[セカンダリ]

アドレス

(ポーリング最小値)

(ポーリング最大値)

必要に応じて、プライマリと同様に設定します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

第 6 章

VPN

1. IPsec トンネル

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

VPN

IPsec

・ IPsec トンネル

IPsec トンネル

説明	番号	本装置側			相手側			状態	編集	削除	複製	更新
		LAN側	ID又はアドレス	ID又はアドレス	LAN側							
(未設定)												
追加												

IPsec トンネルの追加

IPsec トンネルを追加するには、「追加」をクリックします。

「追加」をクリックすると、下記の画面が表示されます。

設定の追加	
説明	
相手装置の設定	
ISAKMP動作モード	固定 ▼
リモートアドレス	
リモートIDのタイプ	使用しない ▼
リモートID	
IKEバージョン	1 ▼
認証方式	PSK ▼
認証鍵	(必須)
キーブアライブ	再接続 ▼
自装置の設定	
自分のIDのタイプ	使用しない ▼
自分のID	
インタフェース	(選択して下さい) ▼
トンネルの設定	
トンネルモード	ルートベース ▼
送信元アドレス	指定する ▼ (必須)
宛先アドレス	指定する ▼ (必須)
接続方法	自動 ▼
NATトラバース	使用しない ▼
経路情報の設定	
追加する経路情報	
保存 戻る	

説明

IPsec トンネルの説明を記述します。

説明	vpn1
----	------

- ・ 1 ~ 64 文字の半角英数字 / 記号を使用することが出来ます。

[相手装置の設定]

ISAKMP 動作モード

ISAKMP 動作モード（「固定」 / 「動的」）を、プルダウンから選択します。

ISAKMP動作モード	固定
	固定
	動的

- ・本装置とリモート（対向装置）が、どちらも固定 IP アドレスの場合は、「固定」を選択します。
- ・本装置またはリモート（対向装置）のどちらか一方が、動的 IP アドレスの場合は、「動的」を選択します。

リモートアドレス

リモートアドレス（対向装置の IPv4 アドレス）を A.B.C.D のフォーマットで入力します。

リモートアドレス	192.168.1.254
----------	---------------

- ・リモートアドレスが、動的 IP アドレスの場合は、空欄にします。

リモート ID のタイプ

プルダウンから、リモート ID のタイプを選択します。

リモートIDのタイプ	使用しない
	使用しない
	FQDN
	USER@FQDN
	識別名(DN)
	KEY-ID

リモート ID

選択したリモート ID のタイプに従って、ID を入力します。

リモートID	nrx2
--------	------

- ・「FQDN」の例：centurysys.co.jp
- ・「USER@FQDN」の例：user@centurysys.co.jp
- ・「識別名（DN）」の例：
C=JP, ST=Tokyo, O=century, OU=dev,
N=nrx1.centurysys.co.jp,
E=admin@centurysys.co.jp
- ・「KEY-ID」の例：keyid

IKE バージョン

プルダウンから、IKE のバージョン（「1」 / 「2」）を選択します。

認証方式

プルダウンから、認証方式（「PSK」 / 「RSA」）を選択します。

認証方式	PSK
	指定しない
	PSK
	RSA

認証鍵

認証方式の設定に従って、認証鍵を入力します。

- ・「PSK」を選択した場合は、事前共有鍵を入力します。
- ・「RSA」を選択した場合は、RSA 公開鍵を入力します。

キープアライブ

キープアライブでエラーを検出した場合、IKE / IPsec SA および IPsec policy を削除します。プルダウンから、その後の動作を選択します。

キープアライブ	再接続
	再接続
	クリア
	ホールド
	使用しない

「再接続」

SA および policy の削除後に、IKE ネゴシエーションを開始します。

ただし、接続方法として「レスポonder」を選択した場合は、IKE ネゴシエーションしません。

「クリア」

SA および policy の削除後は、ユーザの指示を待ちます。

「ホールド」

SA の削除後は、policy のみが有効になります。policy にマッチするパケットを受信すると IKE ネゴシエーションを開始します。

ただし、接続方法として「レスポonder」を選択した場合は、IKE ネゴシエーションしません。

「使用しない」

キープアライブを送信しません。ただし、対向装置からのキープアライブには応答します。

[自装置の設定]

自分の ID タイプ

プルダウンから、リモート ID のタイプを選択します。

自分のIDのタイプ	使用しない ▼
	使用しない
	FQDN
	USER@FQDN
	識別名(DN)
	KEY-ID

自分の ID

選択したリモート ID のタイプに従って、ID を入力します。

- ・「FQDN」の例：centurysys.co.jp
- ・「USER@FQDN」の例：user@centurysys.co.jp
- ・「識別名(DN)」の例：
C=JP, ST=Tokyo, O=century, OU=dev,
N=nxr1.centurysys.co.jp,
E=admin@centurysys.co.jp
- ・「KEY-ID」の例：keyid

インタフェース

IPsec で使用するインタフェースを、プルダウンから選択します。

インタフェース	(選択して下さい) ▼
	(選択して下さい)
	ethernet0
	ethernet1
	ethernet2
	ethernet3
	ppp0
	ppp1
	ppp2
	ppp3
	ppp4

[トンネルの設定]

トンネルモード

プルダウンから、トンネルモード(「ルートベース」/「ポリシーベース」)を選択します。

トンネルモード	ルートベース ▼
	ルートベース
	ポリシーベース

送信元アドレス

IPsec トンネルの送信元アドレスを、プルダウンから選択します。

送信元アドレス	全て ▼
	指定する
	全て
	ホスト

「指定する」

本装置側の(LAN側の)ネットワークアドレス(A.B.C.D/M)を指定します。

「全て」

すべての送信元アドレスが、暗号化の対象となります。

「ホスト」

本装置が送信元となるパケットを暗号化します。

宛先アドレス

IPsec トンネルの宛先アドレスを、プルダウンから選択します。

宛先アドレス	全て ▼
	指定する
	全て
	ホスト

「指定する」

対向装置側の(LAN側の)ネットワークアドレス(A.B.C.D/M)を指定します。

「全て」

すべての宛先アドレスが、暗号化の対象となります。

「ホスト」

対向装置が宛先となるパケットを暗号化します。

接続方法

プルダウンから、接続方法を選択します。

接続方法	自動
	自動
	手動
	オンデマンド
	レスポonder

「自動」

IPsec サービス起動時に、ネゴシエーションを開始します。

「手動」

IPsec サービス起動時に、(tunnel を追加するだけで) ネゴシエーションを開始しません。Backup policy などを使用します。

「オンデマンド」

IPsec サービス起動時に、ルートのみを設定します。

「レスポonder」

IPsec サービス起動時の動作は、「手動」と同様です。

ただし、いかなる場合 (rekey を含む) においても、こちらから開始することはありません。

NAT トラバーサル

プルダウンから、「使用する」 / 「使用しない」を選択します。

NAT トラバーサル	使用しない
	使用しない
	使用する

・本装置が、NAT ボックスの配下に位置する場合は、「使用する」を選択します。

[経路情報の設定]

追加する経路情報

経路情報を追加する場合に設定します。

追加する経路情報	
----------	--

・ネットワークアドレスを指定します。

例 10.0.0.0/8

IPsec トンネルの状態

IPsecトンネル									
説明	番号	本装置側		相手側		状態	編集	削除	複製
		LAN側	ID又はアドレス	ID又はアドレス	LAN側				
vpn1	1	1.1.1.0/24	nrx1	nrx2	2.2.2.0/24	表示	編集	削除	複製

「表示」をクリックすると、IPsec トンネルの状態を表示します。

IPsecトンネル									
情報表示 (tunnel 1)									
更新 閉じる									
<pre> 000 "tunnel": 1.1.1.0/24===-1.2.3.120[nrx1]...1.2.3.4[nrx2]===2.2.2.0/24; erouted; ex 000 "tunnel": ake_life: 10800s; ipsec_life: 3600s; margin: 270s; inc_ratio: 100% 000 "tunnel": newest ISAKMP SA: #3; newest IPsec SA: #4; 000 "tunnel": IKE proposal: AES_CBC_128/HMAC_SHA2_256/MODP_1024 000 "tunnel": ESP proposal: AES_CBC_128/HMAC_SHA2_256/ 000 000 #4: "tunnel" STATE_QUICK_R2 (IPsec SA established); EVENT_SA_REPLACE in 545s; new 000 #4: "tunnel" esp.3b543803@1.2.3.4 (0 bytes) esp.308d6407@1.2.3.120 (0 bytes); tun 000 #3: "tunnel" STATE_MAIN_R3 (sent MR3, ISAKMP SA established); EVENT_SA_REPLACE in 000 #2: "tunnel" STATE_QUICK_I2 (sent QI2, IPsec SA established); EVENT_SA_REPLACE in 000 #2: "tunnel" esp.58015d85@1.2.3.4 (0 bytes) esp.27a13d1a@1.2.3.120 (0 bytes); tun 000 #1: "tunnel" STATE_MAIN_I4 (ISAKMP SA established); EVENT_SA_REPLACE in 7364s 000 Connections: Security Associations: no match </pre>									

- ・「更新」をクリックすると、最新の状態を取得することが出来ます。
- ・「閉じる」をクリックすると、画面を閉じます。

IPsec トンネルの編集（基本設定）

「編集」をクリックすると、IPsec トンネルの基本設定を編集することができます。

● IPsecトンネル									
説明	番号	本装置側		相手側		状態	編集	削除	複製
		LAN側	ID又はアドレス	ID又はアドレス	LAN側				
vpn1	1	1.1.1.0/24	nvr1	nvr2	2.2.2.0/24	表示	編集	削除	複製

下記画面にて、各項目の編集を行います。

トンネル1 基本設定		詳細設定
説明		
相手装置の設定		
ISAKMP動作モード	固定 ▼	
リモートアドレス	192.168.1.254	
リモートIDのタイプ	使用しない ▼	
リモートID		
IKEバージョン	1 ▼	
認証方式	PSK ▼	
認証鍵	password	
キーアライブ	再接続 ▼	
自装置の設定		
自分のIDのタイプ	使用しない ▼	
自分のID		
インタフェース	ethernet1 ▼	
トンネルの設定		
トンネルモード	ルートベース ▼	
送信元アドレス	全て ▼	
宛先アドレス	全て ▼	
接続方法	自動 ▼	
NATトラバース	使用しない ▼	
経路情報の設定		
追加する経路情報		
保存	戻る	

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

IPsec トンネルの編集（詳細設定）

「詳細設定」をクリックすると、IPsec トンネルの詳細設定を編集することができます。

トンネル1 基本設定		詳細設定
------------	--	------

[相手装置の設定]

基本設定を参照してください。

[暗号設定]

暗号設定	
ハッシュアルゴリズム	SHA256 ▼
暗号化アルゴリズム	AES128 ▼
DHグループ	2 ▼

ハッシュアルゴリズム

プルダウンから、ハッシュアルゴリズムを選択します。

- ・初期値は、「SHA256」です。

暗号化アルゴリズム

プルダウンから、暗号化アルゴリズムを選択します。

- ・初期値は、「AES128」です。

DHグループ

プルダウンから、DHグループを選択します。

- ・初期値は、DHグループ「2」です。

[XAuth]

XAuth	
Xauthの使用	使用しない ▼
Xauthユーザ名	

Xauthの使用

Xauthの使用（「使用しない」/「サーバ」/「クライアント」）を、プルダウンから選択します。

Xauthユーザ名

「クライアント」を選択した場合、ユーザ ID を設定します。

[モードコンフィグ]

モードコンフィグ	
モードコンフィグの使用	使用しない ▼
アドレスプール名	

モードコンフィグの使用

モードコンフィグの使用（「使用しない」/「レスポンド」/「イニシエータ」）を、プルダウンから選択します。

アドレスプール名

アドレスプール名を設定します。

[キーブアライブ]

キーブアライブ	
キーブアライブ	再接続 ▼
インターバル	30
回数	3

キーブアライブ

基本設定を参照してください。

インターバル

キーブアライブのインターバル（10 ~ 3600 [sec]）を設定します。初期値は、「30」です。

回数

キーブアライブのリトライ回数（0 ~ 60[回]）を設定します。初期値は、「3」です。

- ・インターバル「30」、回数「3」の場合、30秒間隔で、合計4回のキーブアライブを実行し、すべて失敗した場合にエラーと判定します。

[ライフタイム]

ライフタイム	
ライフタイム	10800
再認証	使用する ▼
リキーのマージン(時間)	270
マージン比率[%]	100

ライフタイム

ライフタイム (121-86400[sec]) を設定します。

- ・初期値は、「10800」です。

再認証

プルダウンから、「使用する」/「使用しない」を選択します。

- ・IKEv2 では、リキーのタイミングで、「再認証」または「リキー」を選択することが出来ます。
- ・セキュリティを考慮する場合は、「使用する」を選択します。
- ・再認証を行うと、負荷がかかるため、負荷に配慮する場合は、「使用しない」を選択します。

リキーのマージン(時間)

リキーのマージン (30 ~ 360[sec]) を設定します。初期値は、「270」です。

- ・リキーを開始するタイミングを指定します。マージンが「270」の場合、ライフタイムが終了する270[sec]前からリキーを開始します。

マージン比率[%]

マージン比率 (「0-100[%]」) を設定します。初期値は、「100」です。

- ・マージン比率によって、リキーのマージンを大きくすることが出来ます。
- ・マージン「270」、マージン比率「100」の場合、ライフタイム終了前の270 ~ 540秒の間に、ランダムなタイミングで、リキーを開始します。
- ・マージン比率を「0」に設定すると、毎回同じタイミングでリキーを行います。負荷やセキュリティ的に、問題があるため、設定しないことを推奨します。
- ・接続方法が、「レスポnder」の場合、当該機器からはリキーを行いません。

[自装置の設定]

自装置の設定	
自分のIDのタイプ	使用しない ▼
自分のID	
インタフェース	ethernet1 ▼
X.509認証	使用しない ▼

自分のIDタイプ

基本設定を参照してください。

自分のID

基本設定を参照してください。

インタフェース

基本設定を参照してください。

X.509 認証

- ・認証方式として「RSA」を指定した場合に、選択することが出来ます。
- ・IKEv2 ローカルの認証方式、IKEv2 リモートの認証方式として、「RSA」を指定した場合に、選択することが出来ます。

[ポリシーチェック]

ポリシーチェック	
入力時	チェックする ▼
出力時	チェックする ▼

入力時

プルダウンから、「チェックする」/「チェックしない」を選択します。

出力時

プルダウンから、「チェックする」/「チェックしない」を選択します。

- ・IPsec policyのチェックを行わないように指定する機能です。特定の通信のみIPsec化しないような場合に、本機能を使用します。
- ・入力時「チェックしない」場合、inbound policy checkを実行しないため、平文のパケットが、IPsec policyにマッチしても、当該パケットをドロップしません。
- ・出力時「チェックしない」場合、当該インタフェースから出力するパケットは、IPsec policyをチェックしないため、平文で送信します。

[トンネルの設定]

トンネルの設定	
トンネルモード	ルータベース ▼
送信元アドレス	全て ▼
宛先アドレス	全て ▼
接続方法	自動 ▼
NATトラバース	使用しない ▼
プライオリティ	1

トンネルモード
基本設定を参照してください。

送信元アドレス
基本設定を参照してください。

宛先アドレス
基本設定を参照してください。

接続方法
基本設定を参照してください。

NATトラバース
基本設定を参照してください。

プライオリティ
ポリシーのプライオリティ (1 ~ 255) を設定します。初期値は、「1」です。

[暗号設定]

暗号設定	
認証アルゴリズム	ESP-AES128 ▼
暗号化アルゴリズム	ESP-SHA256-HMAC ▼
ESN	使用しない ▼
PFS(DHグループ)	Phase1 ▼
SA ライフタイム	3600
アンチリプレー機能	使用する ▼

認証アルゴリズム
プルダウンから、認証アルゴリズムを選択します。
・初期値は、「ESP-AES128」です。

暗号化アルゴリズム
プルダウンから、暗号化アルゴリズムを選択します。
・初期値は、「ESP-SHA256-HMAC」です。

ESN
プルダウンから、「使用しない」 / 「使用する」を選択します。
・初期値は、「使用しない」です。

PFS(DHグループ)
プルダウンから、PFS(DH グループ)を選択します。
・初期値は、「Phase1」です。

SA ライフタイム
IPsec SA のライフタイム (1081-86400[sec]) を設定します。
・初期値は、「3600」です。

アンチリプレー機能
アンチリプレー機能の設定 (「使用する」 / 「使用しない」) を、プルダウンから選択します。
・初期値は、「使用する」です。

[経路情報の設定]

基本設定を参照してください。

第6章 VPN

. IPsec

IPsec トンネルの削除

「削除」をクリックすると、トンネルを削除することが出来ます。

IPsecトンネル									
更新									
説明	番号	本装置側		相手側		状態	編集	削除	複製
		LAN側	ID又はアドレス	ID又はアドレス	LAN側				
vpn1	1	1.1.1.0/24	nrx1	nrx2	2.2.2.0/24	表示	編集	削除	複製
追加									

IPsec トンネルの複製

「設定の複製」をクリックすると、既存設定の複製を作成することが出来ます。

IPsecトンネル									
更新									
説明	番号	本装置側		相手側		状態	編集	削除	複製
		LAN側	ID又はアドレス	ID又はアドレス	LAN側				
vpn1	1	1.1.1.0/24	nrx1	nrx2	2.2.2.0/24	表示	編集	削除	複製
追加									

下記画面にて、項目の編集を行います。

設定の複製	
説明	Copy_of_Tunnel1
相手装置の設定	
ISAKMPポリシー	追加する ▼
ISAKMP動作モード	固定 ▼
リモートアドレス	192.168.1.254
リモートIDのタイプ	使用しない ▼
リモートID	
IKEバージョン	1 ▼
認証方式	PSK ▼
認証鍵	password
キーブライブ	再接続 ▼
自装置の設定	
設定	追加する ▼
自分のIDのタイプ	使用しない ▼
自分のID	
インタフェース	ethernet1 ▼
トンネルの設定	
トンネルモード	ルートベース ▼
送信元アドレス	全て ▼
宛先アドレス	全て ▼
接続方法	自動 ▼
NATトランスバースル	使用しない ▼
経路情報の設定	
追加する経路情報	
保存	戻る

「保存」をクリックすると、設定の複製が作成されます。

IPsecトンネル									
更新									
説明	番号	本装置側		相手側		状態	編集	削除	複製
		LAN側	ID又はアドレス	ID又はアドレス	LAN側				
vpn1	1	1.1.1.0/24	nrx1	nrx2	2.2.2.0/24	表示	編集	削除	複製
Copy_of_vpn1	2	1.1.1.0/24	nrx1	nrx3	3.3.3.0/24	表示	編集	削除	複製
追加									

2. IPsec 全体設定

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。

VPN

IPsec

・ IPsec 全体設定

IPsec 全体設定

RSA鍵	鍵の長さ	
NATトラバース	使用しない ▼	
Path MTU Discovery	使用する ▼	
X.509認証	使用しない ▼	
X.509証明書の有効期限	チェックする ▼	
Priority Ignore	使用しない ▼	
モードコンフィグ		
アドレスプール	非表示	
	アドレスプール名	編集 削除
	(未設定)	
	追加	
IKEプライマリDNSサーバ		
IKEセカンダリDNSサーバ		
IKEプライマリWINSサーバ		
IKEセカンダリWINSサーバ		
IKEv2プライマリDNSサーバ		
IKEv2セカンダリDNSサーバ		
IKEv2プライマリWINSサーバ		
IKEv2セカンダリWINSサーバ		
保存	戻る	

RSA 鍵

生成する RSA 鍵の長さ (512 ~ 1024) を指定します。

NAT トラバース

「使用する」 / 「使用しない」をプルダウンから選択します。

- ・ NAT 装置の配下に、本装置が設置されている状況で、IPsec 接続を行う場合は、「使用する」を選択します。
- ・ IKEv1 では、「使用する」 / 「使用しない」を選択することが出来ます。
- ・ IKEv2 では、自動的に NAT トラバースが有効になります (無効にすることは、出来ません)。

Path MTU Discovery

「使用する」 / 「使用しない」をプルダウンから選択します。

- ・ IPsec において、Path MTU Discovery を「使用しない」場合、DF ビットが「1」で、かつトンネル MTU を超えてしまう時でも、強制的にトンネリングして転送します。この場合、outer の IP ヘッダの DF ビットは、必ず「0」が設定されます。
- ・ IPsec において、Path MTU Discovery を「使用する」場合、DF ビットが「1」で、かつトンネル MTU を超えてしまう時、fragment needed を送信元に返信し、パケットをドロップします。この場合、outer の IP ヘッダの DF ビットは、トンネリングパケットの値が設定されます。

X.509 認証

「使用する」 / 「使用しない」を、プルダウンから選択します。

- ・ X.509 証明書を使用した認証を有効にする場合は、「使用する」を選択します。

X.509 証明書の有効期限

「チェックする」 / 「チェックしない」を、プルダウンから選択します。

- ・ X.509 証明書の有効期間をチェックする機能です。
- ・ 「チェックする」場合、現在時刻が証明書の有効期間外であれば、当該証明書を使用することは出来ません。
- ・ 「チェックしない」場合、常に証明書の利用が可能となります。また、CRL による証明書の無効化も行いません。

Priority Ignore

「使用する」 / 「使用しない」を、プルダウンから選択します。

モードコンフィグ

リモート VPN client に対して、内部ネットワーク情報を設定する方法として、モードコンフィグに対応しています。

IKEv1/IKEv2のいずれでも使用可能です。

アドレスプール

アドレスプールを追加するには、「追加」をクリックします。

アドレスプール	
アドレスプール名	(必須)
アドレス	(必須)
保存	戻る

アドレスプール名

アドレスプール名を指定します。

アドレス

ネットワークアドレス (A.B.C.D/M) を指定します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

IKE プライマリ DNS サーバ**IKE セカンダリ DNS サーバ**

VPN client に対して、指定した DNS サーバを割り当てることができます。

IP アドレス (A.B.C.D) を指定します。

IKE プライマリ WINS サーバ**IKE セカンダリ WINS サーバ**

VPN client に対して、指定した WINS サーバを割り当てることができます。

IP アドレス (A.B.C.D) を指定します。

IKEv2 プライマリ DNS サーバ**IKEv2 セカンダリ DNS サーバ**

VPN client に対して、指定した DNS サーバを割り当てることができます。

IP アドレス (A.B.C.D) を指定します。

IKEv2 プライマリ WINS サーバ**IKEv2 セカンダリ WINS サーバ**

VPN client に対して、指定した WINS サーバを割り当てることができます。

IP アドレス (A.B.C.D) を指定します。

システム内で共通の設定です (ISAKMP 単位で指定することは出来ません)。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

アドレスプールの編集

「編集」をクリックします。

アドレスプール	非表示		
	アドレスプール名	編集	削除
	test	編集	削除
	追加		

アドレスプールの削除

「削除」をクリックします。

3. IPsec 認証設定

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

VPN

IPsec

・ IPsec 認証設定

- 証明書			
CA証明書	ファイルを選択	選択されていません	追加
CA失効リスト	ファイルを選択	選択されていません	追加
X.509証明書	追加	(未設定)	

- XAuthアカウント		
ユーザ名	編集	削除
(未設定)		
追加		

- PSKアカウント			
タイプ	ユーザ名	編集	削除
(未設定)			
追加			

- EAPアカウント			
タイプ	ユーザ名	編集	削除
(未設定)			
追加			

- EAP-RADIUSサーバ				
アドレス	認証ポート番号	NAS ID	編集	削除
(未設定)				
追加				

戻る

証明書

- 証明書			
CA証明書	ファイルを選択	選択されていません	追加
CA失効リスト	ファイルを選択	選択されていません	追加
X.509証明書	追加	(未設定)	

CA証明書の追加

「ファイルを選択」をクリックして、CA証明書を指定します。

「追加」をクリックします。

DER (*.der, *.cer)またはPEM (*.pem)フォーマットの証明書をインポートすることができます。

- ・ファイルの拡張子を変更しないでください。なお、シングルDESで暗号化された鍵ファイルを使用することは出来ません。

CA失効リストの追加

「ファイルを選択」をクリックして、CA失効リストを指定します。

「追加」をクリックします。

X.509証明書の追加

X.509証明書の「追加」をクリックすると、下記の画面が表示されます。

X.509証明書		
証明書	ファイルを選択	選択されていません
プライベートキー	ファイルを選択	選択されていません
パスワード		
保存 戻る		

証明書

「ファイルを選択」をクリックして、証明書を指定します。

プライベートキー

「ファイルを選択」をクリックして、プライベートキーを指定します。

パスワード

パスワードを入力します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

CA 証明書の削除

「削除」をクリックします。

- 証明書		
CA証明書	CA証明書.1 ▶ /C=JP/ST=Tokyo/O=CS/OU=SW2/CN=CA	削除
CA失効リスト	CA失効リスト.1 ▶ issuer=/C=JP/ST=Tokyo/O=CS/OU=SW2/CN=CA	削除
X.509証明書	X.509証明書.1 ▶ /C=JP/ST=Tokyo/O=CS/OU=SW2/CN=CA	削除

CA 失効リストの削除

「削除」をクリックします。

X.509 証明書の削除

「削除」をクリックします。

XAuth アカウント

- XAuthアカウント	
ユーザ名	編集 削除
(未設定)	
追加	

XAuth アカウントの追加

XAuth アカウントの「追加」をクリックすると、下記の画面が表示されます。

XAuthアカウント	
ユーザ名	(必須)
パスワード	(必須)
保存	

ユーザ名

ユーザ名を入力します(必須)。

パスワード

パスワードを入力します(必須)。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

XAuth アカウントの編集

「編集」をクリックします。

- XAuthアカウント	
ユーザ名	編集 削除
XauthUser	編集 削除
追加	

XAuth アカウントの削除

「削除」をクリックします。

PSK アカウント

PSKアカウント			
タイプ	ユーザ名	編集	削除
(未設定)			
追加			

PSK アカウントの追加

PSK アカウントの「追加」をクリックすると、下記の画面が表示されます。

PSKアカウント	
タイプ	FQDN ▼
ユーザ名	(必須)
パスワード	(必須)
保存	

タイプ

プルダウンから、タイプ (「FQDN」 / 「USER@FQDN」 / 「KEY-ID」) を選択します。

タイプ	KEY-ID ▼
	KEY-ID
	ストリング

ユーザ名

ユーザ名を入力します (必須)。

パスワード

パスワードを入力します (必須)。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

PSK アカウントの編集

「編集」をクリックします。

PSKアカウント			
タイプ	ユーザ名	編集	削除
fqdn	PSKUSER	編集	削除
追加			

PSK アカウントの削除

「削除」をクリックします。

EAP アカウント

EAPアカウント			
タイプ	ユーザ名	編集	削除
(未設定)			
追加			

EAP アカウントの追加

EAP アカウントの「追加」をクリックすると、下記の画面が表示されます。

EAPアカウント	
タイプ	KEY-ID ▼
ユーザ名	(必須)
パスワード	(必須)
保存	

タイプ

プルダウンから、タイプ (「KEY-ID」 / 「ストリング」) を選択します。

タイプ	KEY-ID ▼
	KEY-ID
	ストリング

ユーザ名

ユーザ名を入力します (必須)。

パスワード

パスワードを入力します (必須)。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

EAP アカウントの編集

「編集」をクリックします。

EAPアカウント			
タイプ	ユーザ名	編集	削除
key	EAPUSER	編集	削除
追加			

EAP アカウントの削除

「削除」をクリックします。

EAP-RADIUS サーバ

EAP-RADIUSサーバ				
アドレス	認証ポート番号	NAS ID	編集	削除
(未設定)				
追加				

EAP-RADIUS サーバの追加

EAP-RADIUS サーバの「追加」をクリックすると、下記の画面が表示されます。

EAP-RADIUSサーバ	
アドレス	(必須)
認証ポート番号	1812 ▼
シークレット	(必須)
NAS ID	
保存	

アドレス

アカウント認証を行うRADIUSサーバのアドレス(A.B.C.D)を入力します(必須)。

認証ポート番号

プルダウンから、認証ポート番号(「1645」/「1812」/「指定する」)を選択します。

認証ポート番号	1812 ▼
	1645
	1812
	指定する

「指定する」を選択した場合は、ポート番号(1024-65535)を指定します。

シークレット

シークレット(秘密鍵)を入力します(必須)。

NAS ID

任意の文字(32文字以内)を指定することが可能です。

Default は、機種名-IPsec(ex.NXR120-IPsec)です。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

EAP-RADIUS サーバの編集

「編集」をクリックします。

EAP-RADIUSサーバ				
アドレス	認証ポート番号	NAS ID	編集	削除
1.1.1.1	1812		編集	削除

EAP-RADIUS サーバの削除

「削除」をクリックします。

EAP-RADIUSサーバ				
アドレス	認証ポート番号	NAS ID	編集	削除
1.1.1.1	1812		編集	削除

1. L2TPv3 接続設定

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。

VPN

L2TPv3

・ L2TPv3 接続設定

L2TPv3 接続設定

L2TPv3 接続設定の追加

「追加」をクリックすると、下記の画面が表示されます。

設定の追加	
説明	<input type="text"/>
トンネルの設定	
リモート Router ID	(必須) <input type="text"/>
リモートホスト名	(必須) <input type="text"/>
リモートアドレス	<input type="text"/>
Helloインターバル	60 <input type="text"/>
Xconnectの設定	
インタフェース	(選択して下さい) ▼
Remote End ID	(必須) <input type="text"/>
VLAN ID	<input type="text"/>
リトライ間隔	0 <input type="text"/>
保存	

説明

当該 L2TPv3 トンネル接続設定の説明を記入します。

[トンネルの設定]

リモート Router ID

リモート LCCE の Router ID (A.B.C.D) を入力します (必須)。

リモートホスト名

リモート LCCE のホスト名を入力します (必須)。

リモートアドレス

リモート LCCE のトンネルアドレス (A.B.C.D) を入力します。

Hello インターバル

Hello パケットの送信間隔を設定します。

[Xconnect の設定]

インタフェース

プルダウンから、Xconnect インタフェースを選択します。

Remote END ID

リモート LCCE の END ID (1-4294967295) を設定します (必須)。

VLAN ID

VLAN tag を使用する場合に、VLAN ID (1-4094) を設定します。

リトライ間隔

トンネル / セッションが切断したときに、自動再接続を開始するまでの間隔 (0-1000 [秒]) を設定します。

「0」を設定した場合は、自動再接続を開始しません。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

L2TPv3接続設定の二重化設定

説明	番号	二重化設定	追加	インタフェース	Remote End ID	リモートRouter ID	編集	削除	複製	更新
L1	1			etherne0	1	192.160.1.1	編集	削除	複製	
L2	2			etherne0	2	192.168.1.2	編集	削除	複製	

「追加」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

二重化設定の追加	
プライマリ	(選択して下さい) ▼
セカンダリ	(選択して下さい) ▼
Preempt	使用しない ▼
プライマリ強制切断	使用しない ▼
Active Hold	使用しない ▼
MACアドレス広告	使用しない ▼
保存	戻る

プライマリ

プルダウンから、プライマリを選択します。

プライマリ	(選択して下さい) ▼
	(選択して下さい)
	No.1:tunnel_to_nxr1
	No.2:tunnel_to_nxr2

セカンダリ

プルダウンから、セカンダリを選択します(プライマリとセカンダリは、異なるように選択します)。

プライマリ	(選択して下さい) ▼
	(選択して下さい)
	No.1:tunnel_to_nxr1
	No.2:tunnel_to_nxr2

Preempt

プルダウンから、Preemptの設定(「使用する」/「使用しない」)を選択します。

Preempt	使用しない ▼
	使用しない
	使用する

セカンダリセッションがactiveの状態、プライマリセッションが確立した時の動作を設定します。

- Preemptを「使用する」場合は、プライマリセッションがactive、セカンダリセッションはstandbyになります。
- Preemptを「使用しない」場合は、セカンダリセッションがactiveのままです。

プライマリ強制切断

プルダウンから、プライマリ強制切断の設定(「使用する」/「使用しない」)を選択します。

プライマリ強制切断	使用しない ▼
	使用しない
	使用する

- 「使用する」場合、プライマリセッションがactiveに移行した際に、セカンダリセッションを強制的に切断します。
- 本機能を有効にする場合は、Preemptを「使用する」に設定します。

Active Hold

プルダウンから、Active Holdの設定(「使用する」/「使用しない」)を選択します。

Active Hold	使用しない ▼
	使用しない
	使用する

- 対向のLCCEからリンクダウンを受信した際に、セカンダリセッションへの切り替えを行わずに、プライマリセッションをactiveのまま維持する機能です。
- 1対1の二重化構成において、対向LCCEでリンクダウンが発生した際に、プライマリからセカンダリへactiveセッションを切り替えたとしても、通信できない状態は変わりません。このような構成では、不要なセッションの切り替えを抑制するために、本機能を「使用する」に設定することを推奨します。

MACアドレス広告

プルダウンから、MACアドレス広告の設定(「使用する」/「使用しない」)を選択します。

MACアドレス広告	使用しない ▼
	使用しない
	使用する

- グループ機能を使用している構成で、センター側の配下にあるスイッチのMACテーブルを更新するために、ローカルテーブルに登録されているMACアドレス情報を元に、疑似フレームを送信することによって、センターにある端末を発信源とする通信が可能となります。

L2TPv3 接続設定二重化設定の編集

「編集」をクリックします。

説明	番号	二重化設定	インタフェース	Remote End ID	リモートRouter ID	編集	削除	複製
tunnel_to_nxr1	1	追加	ethernet0	1	192.168.1.1	編集	削除	複製
tunnel_to_nxr2	2	追加	ethernet0	2	192.168.1.2	編集	削除	複製

追加

L2TPv3 接続設定二重化設定の削除

「削除」をクリックします。

説明	番号	二重化設定	インタフェース	Remote End ID	リモートRouter ID	編集	削除	複製
tunnel_to_nxr1	1	追加	ethernet0	1	192.168.1.1	編集	削除	複製
tunnel_to_nxr2	2	追加	ethernet0	2	192.168.1.2	編集	削除	複製

追加

L2TPv3 接続設定の編集

「編集」をクリックします。

説明	番号	二重化設定	インタフェース	Remote End ID	リモートRouter ID	編集	削除	複製
	1	追加	ethernet0	1	192.168.1.254	編集	削除	複製

追加

L2TPv3 接続設定の削除

「削除」をクリックします。

説明	番号	二重化設定	インタフェース	Remote End ID	リモートRouter ID	編集	削除	複製
	1	追加	ethernet0	1	192.168.1.254	編集	削除	複製

追加

L2TPv3 接続設定の複製

説明	番号	二重化設定	インタフェース	Remote End ID	リモートRouter ID	編集	削除	複製
	1	追加	ethernet0	1	192.168.1.254	編集	削除	複製

追加

「複製」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

設定の複製	
説明	Copy_of_Xconnect1
トンネルの設定	
トンネル	追加する ▼
リモートRouter ID	192.168.1.254
リモートホスト名	nxr
リモートアドレス	192.168.1.254
Hello-インターバル	60
Xconnectの設定	
インタフェース	ethernet0 ▼
Remote End ID	1
VLAN ID	
リトライ間隔	10

保存

[トンネルの設定]

トンネル

トンネルを追加する場合は、「追加する」を選択します。

トンネルを共有する場合は、既存のトンネルを選択します。

トンネル	No.0 ▼
	追加する
	No.0

その他の項目については、[L2TPv3 接続設定の追加](#)を参照してください。

2. L2TPv3 全体設定

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。

VPN

L2TPv3

・L2TPv3 全体設定

L2TPv3 全体設定

ローカルRouter ID	192.168.1.120
ローカルホスト名	nxr120
MACアドレス学習	
MACアドレス学習	使用する ▼
Always機能	使用しない ▼
Unique機能	使用しない ▼
MACアドレスエイジングタイム	300
L2TPv3 over UDP	
UDP送信元ポート番号	
UDP Path MTU Discovery	使用しない ▼
ToS	
ToS	使用しない ▼
トンネルToS値	
その他機能	
Path MTU Discovery	使用しない ▼
Loop Detect	使用しない ▼
Send Known Unicast	使用しない ▼
保存	

ローカルRouter ID

ローカル LCCE の Router ID (A.B.C.D) を入力します。

ローカルホスト名

ローカル LCCE のホスト名を設定します。

[MAC アドレス学習]

MAC アドレス学習

プルダウンから、MAC アドレス学習の設定(「使用する」/「使用しない」)を選択します。

MACアドレス学習	使用する ▼
	使用する
	使用しない

- ・本装置が受信したフレームのMACアドレスを学習し、不要なトラフィックの転送を抑制する機能です。
- ・ブロードキャスト、マルチキャストについては、本設定に関係なく、すべて転送します。

Always 機能

プルダウンから、Always 機能の設定(「使用する」/「使用しない」)を選択します。

Always機能	使用しない ▼
	使用しない
	使用する

・MAC アドレス広告を「使用する」にした場合、アクティブセッションが作成されたときに、MAC アドレス広告を行います。Xconnect に関連するセッションが1 つも確立されていない場合は、ローカルテーブルにてMAC アドレスが学習されない為、ローカルテーブルにMAC アドレス情報が存在しません。

・Always 機能を「使用する」に設定すると、セッションが1 つも確立されていない場合でも、ローカルテーブルにMAC アドレス学習を行います。

Unique 機能

プルダウンから、Unique 機能の設定(「使用する」/「使用しない」)を選択します。

Unique機能	使用しない ▼
	使用しない
	使用する

- ・ネットワーク構成によっては、ある一つのXconnect のLocal Table、FDB に、同じMAC アドレスが登録されることがあります。本機能を有効にすると、新しく学習したMACアドレスが、ocal Table、FDB のどちらか一方に登録されるため、上記のような状態を回避することが出来ます。
- ・ある一つのXconnect で、Loop Detect 機能と共存した場合、Loop Detect のフレームドロップ処理を優先します。つまり、この場合は、MAC アドレス学習 Unique 機能は、動作しないことになります。

MAC アドレスエイジングタイム

本装置が学習したMAC アドレスの保持時間(30-1000[秒])を設定します。

- ・初期値は、300[秒]です。

[L2TPv3 over UDP]

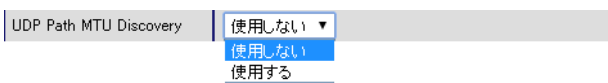
UDP 送信元ポート番号

L2TPv3 over UDP 使用時の送信元ポート番号 (1024-65535) を指定することができます。

- ・初期値は、1701 です。

UDP Path MTU Discovery

プルダウンから、UDP Path MTU Discovery の設定 (「使用する」/「使用しない」) を選択します。



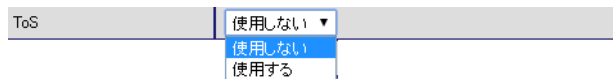
L2TPv3 over UDP 使用時に、Path MTU Discovery の設定 (「使用する」/「使用しない」) を行いません。

- ・本機能を有効にした場合、送信する L2TPv3 パケットの DF (Don't Fragment) ビットを 1 にします。
- ・無効にした場合は、DF ビットを常に 0 にします。
- ・ただし、カプセル化したフレーム長が送信インタフェースの MTU 値を超過する場合は、本設定に関係なく、フラグメントの上、DF ビットを 0 にして送信します。

[L2TPv3 over UDP]

ToS

プルダウンから、ToS 設定 (「使用する」/「使用しない」) を選択します。



・L2TPv3 にてトンネリングされるフレームの L3 プロトコルが IP/IPv6 の場合に、IP/IPv6 ヘッダの ToS 値やユーザが指定した ToS 値を、L2TPv3 セッションパケットの IP ヘッダの IPv4 ToS field に設定する機能です。

- ・Control message は、0xd0 で送信します。

トンネル ToS 値

L2TPv3 ToS 設定を「使用する」場合に、

- ・Control message の ToS 値 (0-252[0x00-0xfc]) を指定することができます。
- ・初期値は、208 (0xd0) です。

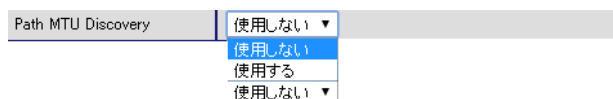
L2TPv3 ToS 設定を「使用しない」場合、

- ・Control message の ToS 値は、固定 (0xd0) です。

[その他機能]

Path MTU Discovery

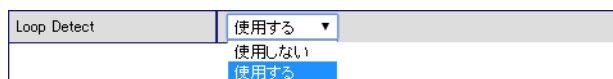
プルダウンから、Path MTU Discoveryの設定（「使用する」 / 「使用しない」）を選択します。



・L2TPv3 over IP 使用時に、Path MTU Discoveryの設定（「使用する」 / 「使用しない」）を行います。

Loop Detect

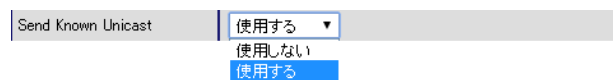
プルダウンから、Loop Detectの設定（「使用する」 / 「使用しない」）を選択します。



- ・フレームの転送がループしてしまうことを防ぐ機能です。この機能が有効になっているときは、以下の2つの場合にフレームの転送を行いません。
 - ・Xconnect インタフェースより受信したフレームの送信元MACアドレスが、FDBに存在するとき。
 - ・L2TPv3セッションより受信したフレームの送信元MACアドレスが、ローカルMACテーブルに存在するとき。

Send Known Unicast

プルダウンから、Send Known Unicastの設定（「使用する」 / 「使用しない」）を選択します。



- ・Known unicast フレームとは、MACアドレス学習済みのunicastフレームのことです。この機能を「使用しない」に設定すると、以下の場合にunicastフレームの転送を行いません。
 - ・Xconnect インタフェースより受信したunicastフレームの送信先MACアドレスがLocal MACテーブルに存在する場合。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

第7章

ファイアウォール

1. IPv4 アクセスリスト

IPv4 アクセスリストの設定をおこないます。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。

ファイアウォール

アクセスリスト

・IPv4 アクセスリスト

IPv4 アクセスリスト

- インタフェース					
インタフェース	入力	出力	転送(入力時)	転送(出力時)	編集
ethernet0					編集
ethernet1					編集
ethernet2					編集
ethernet3					編集

- IPv4アクセスリスト										
アクセスリスト名	動作	送信元アドレス	宛先アドレス	プロトコル	ICMP	送信元ポート	TCP	送信元MACアドレス	ログ	編集
		宛先アドレス			Type	Code	宛先ポート	Syn		削除
(4設定)										
追加										

IPv4 アクセスリストの追加

「追加」をクリックします。

アクセスリスト名	
動作	許可
送信元アドレス	
宛先アドレス	
プロトコル	
プロトコル	全て
プロトコル	
ICMPオプション	
Type	
Code	
送信元ポート	
開始ポート	
終了ポート	
宛先ポート	
開始ポート	
終了ポート	
TCPオプション	
Syn	無効
送信元MACアドレス	
送信元MACアドレス	
フィルタログ	
フィルタログ	無効
保存	

アクセスリスト名

アクセスリスト名を指定します。

動作

アクセスリストにマッチングするパケットの「許可」/「破棄」をプルダウンから選択します。

動作	許可
	許可
	破棄

送信元アドレス

送信元 IP アドレスを入力します。ホストアドレスのほか、ネットワークアドレスでの指定が可能です。

[入力例]

ホストアドレス 192.168.253.10

ネットワークアドレス 192.168.253.0/24

any の場合は、空欄のままにします。

宛先アドレス

宛先 IP アドレスを入力します。ホストアドレスのほか、ネットワークアドレスでの指定が可能です。入力方法は、「送信元アドレス」と同様です。

[プロトコル]

プロトコル

プロトコルをプルダウンから選択します。

プロトコル	全て
	全て
	ICMP
	TCP
	UDP
	数値指定

プロトコル

上記で「数値指定」を選択した場合に、プロトコル番号 <0-255> を入力します。

プロトコル	数値指定
プロトコル	6

第7章 ファイアウォール

アクセスリスト

[ICMP オプション]

ICMP Type

0-255 の範囲で ICMP Type を指定します。
「プロトコル」で「ICMP」を選択した場合に、入力可能です。

ICMP Code

0-255 の範囲で ICMP Code を指定します。
「プロトコル」で「ICMP」を選択した場合に、入力可能です。

[送信元ポート]

開始ポート / 終了ポート

1-65535 の範囲で指定します。
「プロトコル」で「TCP」 / 「UDP」を選択した場合に、入力可能です。

[宛先ポート]

開始ポート / 終了ポート

1-65535 の範囲で指定します。
「プロトコル」で「TCP」 / 「UDP」を選択した場合に、入力可能です。

[TCP オプション]

TCP Syn

Syn フラグをチェックする場合は「SYN」を選択してください。
「プロトコル」で「TCP」を選択した場合に、選択可能です。

TCP Syn	無効
	無効
	SYN

[送信元 MAC アドレス]

送信元 MAC アドレス

送信元 MAC アドレスをチェックする場合は、対象 MAC アドレスを HH:HH:HH:HH:HH:HH のフォーマットで入力します。

[フィルタログ]

フィルタログ

プルダウンから、「無効」 / 「取得」を選択します。

- ・「取得」を選択すると、パケットが、当該アクセスリストにマッチした場合、システムログに出力します。
- ・1秒間に出力可能なログ数の最大値は、「10」です。
- ・すべてのアクセスリストにログを設定すると、システムが高負荷状態になる可能性があるため、ログ出力は、最小限にとどめるようにしてください。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

IPv4 アクセスリストの編集

「編集」をクリックします。

アクセスリスト名	動作	送信元アドレス		プロトコル	ICMP		送信元ポート		TCP	送信元MACアドレス	編集
		宛先アドレス	Type		Code	宛先ポート	Syn				
test1	許可	192.168.0.0/24	tcp				1025-65535			00:11:22:33:44:55	編集
削除		192.168.100.0/24					削除				

IPv4 アクセスリストの削除

「削除」をクリックします。

アクセスリスト名	動作	送信元アドレス		プロトコル	ICMP		送信元ポート		TCP	送信元MACアドレス	編集
		宛先アドレス	Type		Code	宛先ポート	Syn				
test1	許可	192.168.0.0/24	tcp				1025-65535			00:11:22:33:44:55	編集
削除		192.168.100.0/24					削除				

第8章

ユーザインタフェース

第8章 ユーザインタフェース

. SSH

1. SSH サービス

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
ユーザインタフェース

SSH

・ SSH サービス

SSH サービス

起動/停止	停止 ▼
SSHバージョン	SSHv1/SSHv2 ▼
アドレスファミリー	IPv4/IPv6 ▼
ポート番号	
ポート番号	22
ポート番号	
保存	戻る

起動 / 停止

「起動」 / 「停止」をプルダウンから選択します。

起動/停止	停止 ▼
	停止
	起動

SSHバージョン

「SSHv1/SSHv2」 / 「SSHv1」 / 「SSHv2」をプルダウンから選択します。

SSHバージョン	SSHv1/SSHv2 ▼
	SSHv1/SSHv2
	SSHv1
	SSHv2

アドレスファミリー

「IPv4/IPv6」 / 「IPv4」 / 「IPv6」をプルダウンから選択します。

addressファミリー	IPv4/IPv6 ▼
	IPv4/IPv6
	IPv4
	IPv6

[ポート番号]

ポート番号

SSHサーバのポート番号を指定します。デフォルト値は22です。

ポート番号

SSHサーバのセカンダリポート番号を指定します。

2. SSH 鍵(netconf)

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
ユーザインタフェース

SSH

・ SSH 鍵(netconf)

SSH 鍵 (netconf)

ID	種別	フィンガープリント	鍵長	削除
(未設定)				
追加				

SSH 鍵の追加

「参照」をクリックして、ファイル(SSH公開鍵)を指定します。「保存」をクリックすると、SSH鍵が設定されます。

• SSH鍵(netconf)				
公開鍵ファイルを設定しました				

SSH 鍵の削除

「削除」をクリックします。

• SSH鍵(netconf)					
ID	種別	フィンガープリント	鍵長	削除	
0	RSA	13:12:cc:b4:65:ff:22:eb:ef:7c:77:69:58:c8:a9:f0	2048	削除	

1. NETCONF

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

ユーザインタフェース

NETCONF

・NETCONF

NETCONF

サービス	停止 ▼
ロックタイムアウト	60
オートコンフィグレーション	使用しない ▼
保存	戻る

サービス

NETCONF サービスの「起動」/「停止」を設定します。

プルダウンから「停止」/「TCP サービス起動」/「OverSSH有効」を選択します。

サービス	停止 ▼
	停止
	TCPサービス起動
	OverSSH有効

ロックタイムアウト

NETCONF による設定変更時に lock が行われます。lock 状態では、他の管理サーバまたは CLI/GUI からの設定変更は出来ません。また、CLI/GUI あるいは他の管理サーバから設定変更が行われている状態では、lock を行うことは出来ません。lock 状態が解除されるまでの時間を 10-3600[秒]の間で設定します。デフォルト値は60[秒]です。

オートコンフィグレーション

オートコンフィグレーションの「有効」/「無効」を設定します。

プルダウンから「使用しない」/「使用する」を選択します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

第8章 ユーザインタフェース

CRP

1. CRP グローバル

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
ユーザインタフェース

CRP

・CRP グローバル

CRP グローバル

送信元ポート	10625
ホスト名	
カスタマーID	
CPE ID	
CRP広告	編集
保存	戻る

送信元ポート

CRPの送信元UDPポートを1024-65535の間で設定します。デフォルト値は、10625です。

ホスト名

広告するホスト名を指定します。設定がない場合、システム設定

・ホスト名

で指定されたホスト名を広告します。

カスタマーID

カスタマーIDを指定します。管理サーバ側のテナントコードと一致させてください。

CPE ID

CPE IDを指定します。管理サーバ側の機器コードと一致させてください。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

CRP Advertise

CRP Advertise	編集
---------------	----

「編集」をクリックします。

•CRPグローバル	
モード	無効
primary	
アドレスfamily	(指定しない)
インタフェース	指定しない
アドレス	
ポート番号	
secondary	
アドレスfamily	(指定しない)
インタフェース	指定しない
ポート番号	
保存	

モード

プルダウンから「無効」/「インタフェース」/
「アドレス」/「NAT」を選択します。

モード	無効
	無効
	インタフェース
	アドレス
	NAT

[primary]

アドレス family
「モード」で「インタフェース」を選択した場合に設定することができます。
プルダウンから、「IPv4」/「IPv6」を選択します。

アドレスfamily	(指定しない) ▼
	(指定しない)
	IPv4
	IPv6

インタフェース

「モード」で「インタフェース」を選択した場合に設定することができます。プルダウンから、インタフェースを選択します。
選択可能なインタフェースは、下記のとおりです。
「ethernet0」/「ethernet1」/「ethernet2」
「ppp0」/「ppp1」/「ppp2」/「ppp3」

インタフェース	指定しない ▼
	指定しない
	ethernet0
	ethernet1
	ethernet2
	ppp0
	ppp1
	ppp2
	ppp3
	ppp4

アドレス

「モード」で「アドレス」を選択した場合に入力することができます。
広告する本装置の IPv4 アドレス、または IPv6 アドレスを指定します。

アドレス	<input type="text"/>
------	----------------------

ポート番号

「モード」で「インタフェース」、「アドレス」または「NAT」を選択した場合に入力することができます。
広告するポート番号を指定します。通常は22を指定してください。

ポート番号	<input type="text"/>
-------	----------------------

[secondary]

「モード」で「インタフェース」を選択した場合に設定することができます。

アドレス family
プルダウンから、「IPv4」/「IPv6」を選択します。

アドレスfamily	(指定しない) ▼
	(指定しない)
	IPv4
	IPv6

インタフェース

プルダウンから、インタフェースを選択します。
選択可能なインタフェースは、下記のとおりです。
「ethernet0」/「ethernet1」/「ethernet2」
「ppp0」/「ppp1」/「ppp2」/「ppp3」

インタフェース	指定しない ▼
	指定しない
	ethernet0
	ethernet1
	ethernet2
	ppp0
	ppp1
	ppp2
	ppp3
	ppp4

ポート番号

広告するポート番号を指定します。通常は22を指定してください。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

2. CRPクライアント

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

ユーザインタフェース

CRP

・CRPクライアント

CRPクライアント

number	アドレス	ポート番号	ユーザ名	Keepalive	編集	削除
1	(未設定)					

追加

「追加」をクリックします。

番号	1
アドレス	
ポート番号	10625
ユーザ名	
パスワード	
キープアライブ	0
保存	

番号

クライアントの設定番号を、プルダウンから選択します。1または2を指定してください。

アドレス

管理サーバのアドレスを設定します。「IPv4」 / 「IPv6」 / 「FQDN」形式で入力してください。

ポート番号

ポート番号を設定します。1024-65535の数値を入力してください。デフォルト値は、10625です。

ユーザ名

CRPのリクエストメッセージに使用するユーザIDを使用します。

パスワード

認証に使用するパスワードを設定します。

キープアライブ

CRP登録に成功してから、次にCRP登録を試行するまでの時間を指定します。デフォルト値は0で、CRP登録の再試行はしません。

第9章

システム設定

第9章 システム設定

1. システム設定

1. 本装置のパスワード

本装置の設定画面にログインする際のユーザ名、パスワードを変更します。
ルータ自身のセキュリティのために、定期的なパスワード変更を推奨します。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
システム設定

システム設定

- ・本装置のパスワード

本装置のパスワード

旧パスワード	<input type="text"/>
新パスワード	<input type="text"/>
新パスワード (確認用)	<input type="text"/>
保存	

旧パスワード

現在のパスワードを入力します。

新パスワード

半角英数字 / 記号 (5 ~ 95 文字) で、設定します。
大文字・小文字も判別しますのでご注意ください。

新パスワード (確認用)

確認のため再度「新パスワード」を入力してください。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

本装置の操作を続行すると、ログイン用のダイアログ画面がポップしますので、新パスワードで再度ログインしてください。

2. ホスト名

本装置のホスト名を設定します。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
システム設定

システム設定

- ・ホスト名

ホスト名

ホスト名	<input type="text" value="nxrg240"/>
保存	戻る

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

1. システム設定

3. 内蔵時計

本装置の内蔵時計を設定します。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

システム設定
システム設定
・内蔵時計

内蔵時計

2017	年	12	月	19	日	10	時	38	分	09	秒
保存		戻る									

内蔵時計

現在時刻を設定します。

「保存」をクリックすると、時刻が設定されます。

4. セッション数

本装置のセッション最大数を設定します。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

システム設定
システム設定
・セッション数

セッション数

セッション最大数	131072	
保存		戻る

セッション数

本装置のセッション最大数 (4096 ~ 65536) を指定します。

・初期値は、「32768」です。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

2. ログメール

ログの内容を電子メールで送信したい場合の設定です。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

システム設定

ログ

・ログメール

ログメール

メール送信	使用しない ▼								
宛先メールアドレス									
送信元メールアドレス									
件名									
検出文字列	非表示								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>検索文字列</th> <th>編集</th> <th>削除</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>(未設定)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	検索文字列	編集	削除		(未設定)		
	番号	検索文字列	編集	削除					
	(未設定)								
追加									
保存									

メール送信

「使用する」/「使用しない」をプルダウンから選択します。

メール送信	使用しない ▼ 使用しない 使用する
-------	--------------------------

宛先メールアドレス

ログメッセージの送信先メールアドレスを指定します。最大文字数は64文字です。

送信元メールアドレス

送信元のメールアドレスは任意で指定できます。最大文字数は64文字です。

件名

任意で指定できます。使用可能な文字は半角英数字で、最大64文字です。

検出文字列

ここで指定した文字列が含まれるログをメールで送信します。文字列を指定しない場合はログメールは送信されません。

検索文字列の設定

検出文字列を設定するには、「追加」をクリックします。

番号			
検索文字列			
保存			

番号

1-32の間で指定します。

検索文字列

検出文字列には、pppd、IP、DNS などログ表示に使用される文字列を指定してください。なお、文字列の記述に正規表現は使用できません。文字列は、半角英数字で128文字まで指定できます。空白・大小文字も判別します。

複数の文字(文字列)を指定すると、その文字(文字列)に完全一致したログのみ抽出して送信します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

検索文字列の編集

「編集」をクリックします。

検出文字列	非表示								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>検索文字列</th> <th>編集</th> <th>削除</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>pppd</td> <td>編集</td> <td>削除</td> </tr> </tbody> </table>	番号	検索文字列	編集	削除	1	pppd	編集	削除
	番号	検索文字列	編集	削除					
1	pppd	編集	削除						
追加									

検索文字列の削除

「削除」をクリックします。

検出文字列	非表示								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>検索文字列</th> <th>編集</th> <th>削除</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>pppd</td> <td>編集</td> <td>削除</td> </tr> </tbody> </table>	番号	検索文字列	編集	削除	1	pppd	編集	削除
	番号	検索文字列	編集	削除					
1	pppd	編集	削除						
追加									

第9章 システム設定

設定情報

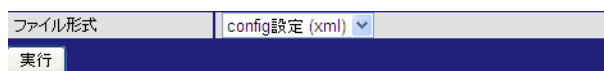
1. 設定の保存

設定の保存をおこないます。

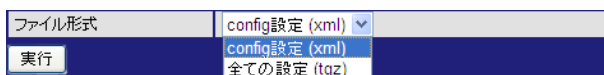
GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

システム設定
設定情報
・設定の保存

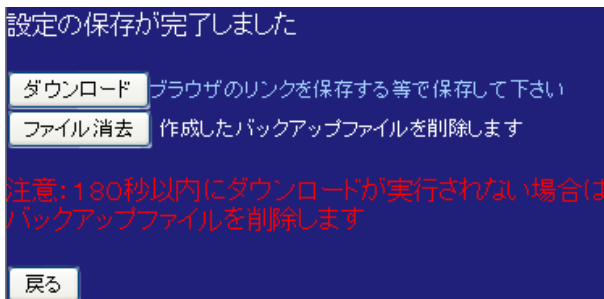
設定の保存



ファイル形式
プルダウンから「config設定(xml)」/「全ての設定(tgz)」を選択します。



「実行」をクリックします。



ダウンロード

ブラウザのリンクを保存する等で、設定ファイルを保存することが出来ます。

ファイル消去

「ファイル消去」をクリックすると、作成したバックアップファイルを削除します。

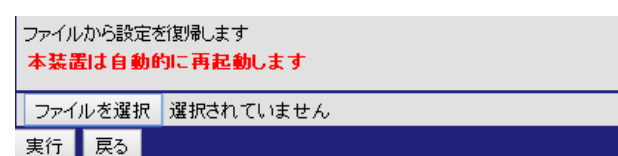
2. 設定の復帰

設定の復帰をおこないます。

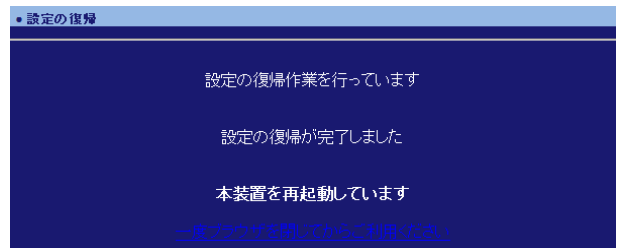
GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

システム設定
設定情報
・設定の復帰

設定の復帰



「ファイルを選択」をクリックして、ファイルを指定します。「実行」をクリックすると、設定の復帰作業がおこなわれます。



設定の復帰が完了すると、本装置が自動的に再起動します。

3. 設定のリセット

設定をリセットします。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

システム設定

設定情報

・ 設定のリセット

設定のリセット

現在の本装置設定内容を全てクリアして工場出荷設定に戻します

本装置は自動的に再起動します

実行 戻る

「実行」をクリックすると、現在の本装置設定内容を全てクリアして工場出荷設定に戻します。本装置は自動的に再起動します。

第9章 システム設定

1. ファームウェア

1. ファームウェアアップデート

ファームウェアをアップデートします。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

システム設定

ファームウェア

・ファームウェアアップデート

アップデート

ファームウェア	ファイルを選択	選択されていません
実行	戻る	

「ファイルを選択」をクリックして、ファームウェアを指定します。

ファームウェア	ファイルを選択	nrx-g240-v940b10.bin
実行	戻る	

「実行」をクリックすると、ファームウェアのアップデート画面が表示されます。

ファームウェアのダウンロードが完了しました	
現在のファームウェアのバージョン	
Century Systems NXR-G240 Series ver 9.4.1 (build 4/12:07 02 11 2017)	
ダウンロードされたファームウェアのバージョン	
Century Systems NXR-G240 ver 9.4.2 (build 9/11:07 18 12 2017)	
このファームウェアでアップデートしますか？	
注意:3分以内にアップデートが実行されない場合はダウンロードしたファームウェアを破棄します	
実行	中止

「実行」をクリックすると、ファームウェアのアップデートを開始します。すべてのサービスおよびパケット処理を停止します。

アップデートを開始すると、下記の画面が表示されます。

ファームウェアのダウンロードが完了しました	
現在のファームウェアのバージョン	
Century Systems NXR-G240 Series ver 9.4.0 (build 10/13:33 13 09 2017)	
ダウンロードされたファームウェアのバージョン	
Century Systems NXR-G240 ver 9.4.2 (build 9/11:07 18 12 2017)	
ファームウェアをアップデートしています	

ファームウェアのアップデートが終了すると、下記の画面が表示され、本装置が自動的に再起動します。

ファームウェアのアップデートが完了しました。 自動的に再起動します。 電源を切らずにお待ち下さい。 一度ブラウザを閉じてからご利用ください
--

ファームウェアアップデートの詳細については、ユーザーズガイド CLI 編を参照してください。

スケジュール

設定された日付 / 曜日 / 時刻に、PPP の接続 / 切断 / 再接続などの指定された処理を実行する機能です。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。

システム設定

・スケジュール

スケジュール

番号	日付	時刻	動作	編集	削除
(未設定)					
追加					

「追加」をクリックします。

日付	日にち ▾ -- ▾ 月 -- ▾ 日
時刻	毎時 ▾ 時 -- ▾ 分
動作	(選択して下さい) ▾
保存	戻る

日付

プルダウンから、日付(「日にち」/「毎日」/「毎週」)を選択します。

・「日にち」を選択した場合、「月」と「日」を指定します。

・月 「毎月」/「1」～「12」

・日 「毎日」/「1」～「31」

・「毎週」を選択した場合、開始曜日(と終了曜日)を指定します。

・開始曜日 「日曜日」～「土曜日」

・終了曜日 「日曜日」～「土曜日」

・毎週日曜日の場合は、開始曜日に「日曜日」を指定します。

時刻

プルダウンから、時刻を選択します。

・「毎時」/「0」～「23」時

・「0」～「59」分

動作

指定時刻に実行する動作を、プルダウンから選択します。

・「システム再起動」を選択すると、指定時刻に、システムを再起動します。

・「リセット(モバイル)」を選択すると、指定時刻に、モバイル端末のリセットを行います。リセット対象となるモバイル番号(「mobile0」/「mobile1」)を指定します。

スケジュールによるモバイルリセットは、数時間以上の間隔を空けることを推奨します。

・「接続」/「再接続」/「切断」を選択した場合、指定時刻に、PPP の接続 / 切断 / 再接続を行います。

接続 / 切断 / 再接続を行う PPP インタフェース(「ppp0」/「ppp1」/「ppp2」/「ppp3」/「ppp4」)を指定します。

本機能によって、切断された場合、手動で切断されたものとみなし、常時接続が設定されていても、再接続は行いません。再接続する場合は、ユーザによる指示、またはスケジュールによる接続の設定が必要になります。

・「NTP時刻修正」を選択すると、指定時刻に、NTPによる時刻同期を行います。

・「ログローテート」を選択すると、指定時刻に、システムログのローテートを実行します。

M2M モード

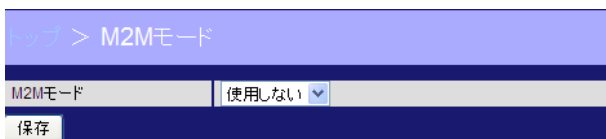
M2M モードを設定します。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。

システム設定

・M2M モード

M2M モード



M2M モード

プルダウンから、「使用する」/「使用しない」を選択します。

- ・「使用する」を選択すると、消費電力を抑えるために、CPUの動作クロックを低く抑えると共に、Ethernetのリンクスピードを最大100Mbpsに抑えます。発熱量を抑えることによって、通常よりも過酷な利用環境下でも、安定した動作を提供することが可能になります。なお、M2Mモードの場合、温度プロテクション機能は動作しません。

温度プロテクション機能とは、温度状態がWarning/Criticalの閾値を超えた際に、機器を守るためにCPUの動作クロックを下げる機能です。CPUの動作クロックを下げることで、発熱量が低減するため、周辺温度の降下が期待出来ます。

「保存」をクリックすると、指定した値が保存されます。

第 10 章

運用機能

ネットワーク診断

1. Ping

指定した宛先に対して、本装置から Ping を実行します。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

運用機能

ネットワーク診断

・Ping

Ping

送信先	
送信回数	10
実行	戻る

送信先

FQDN(www.xxx.co.jp などのドメイン名)、もしくは IP アドレスを入力します。

送信回数

送信する ping パケット数を指定します。
1-10 の範囲で指定します。デフォルト値は 10 です。

「送信先」および「送信回数」を指定して、「実行」をクリックします。

2. Traceroute

指定した宛先までに経由するルータ情報を表示します。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

運用機能

ネットワーク診断

・Traceroute

Traceroute

送信先	
実行	戻る

送信先

FQDN(www.xxx.co.jp などのドメイン名)、もしくは IP アドレスを入力します。

「送信先」を入力して、「実行」をクリックします。

第10章 運用機能

．パケットダンプ

1. パケットダンプ

パケットのダンプを取得します。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

運用機能

パケットダンプ

・パケットダンプ

実行

インタフェース	(選択して下さい) ▼
パケット数	10
880番ポートの通信	ダンプしない ▼
出力先	画面 ▼
実行	戻る

インタフェース

ダンプを取得するインタフェースをプルダウンから選択します。

インタフェース	(選択して下さい) ▼
パケット数	(選択して下さい)
880番ポートの通信	ethernet0
出力先	ethernet1
	ethernet2
	ethernet3
	ppp0
	ppp1
	ppp2
	ppp3
	ppp4
	tunnel

パケット数

キャプチャするパケット数を、1-1000の範囲で指定します。デフォルト値は10です。

880番ポートの通信

「ダンプする」/「ダンプしない」をプルダウンから選択します。

880番ポートの通信	ダンプしない ▼
	ダンプしない
	ダンプする

出力先

出力先をプルダウンから選択します。

出力先	画面 ▼
	画面
	ファイル

「実行」をクリックします。

「出力先」として「画面」を選択した場合は、実行結果が画面に表示されます。

```
14:36:33.998754 IP 192.168.0.1 > 192.168.0.254: ICMP echo request, id 512, seq 256, length 40
14:36:33.998858 IP 192.168.0.254 > 192.168.0.1: ICMP echo reply, id 512, seq 256, length 40
14:36:35.000121 IP 192.168.0.1 > 192.168.0.254: ICMP echo request, id 512, seq 512, length 40
14:36:35.000181 IP 192.168.0.254 > 192.168.0.1: ICMP echo reply, id 512, seq 512, length 40
14:36:36.001183 IP 192.168.0.1 > 192.168.0.254: ICMP echo request, id 512, seq 768, length 40
14:36:36.001187 IP 192.168.0.254 > 192.168.0.1: ICMP echo reply, id 512, seq 768, length 40
14:36:37.002501 IP 192.168.0.1 > 192.168.0.254: ICMP echo request, id 512, seq 1024, length 40
14:36:37.002580 IP 192.168.0.254 > 192.168.0.1: ICMP echo reply, id 512, seq 1024, length 40
```

． パケットダンプ

2. パケットダンプ結果表示

「出力先」として「ファイル」を選択した場合は、「結果表示」からファイルを取得します。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

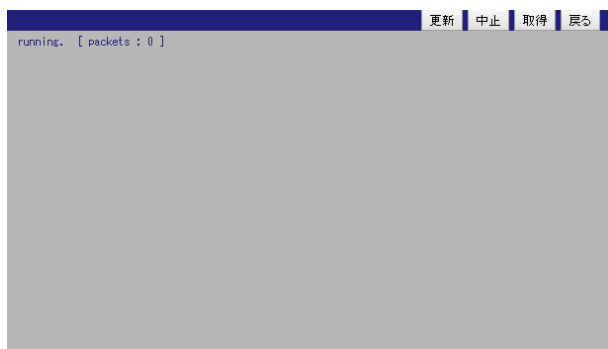
運用機能

パケットダンプ

・パケットダンプ結果表示

結果表示

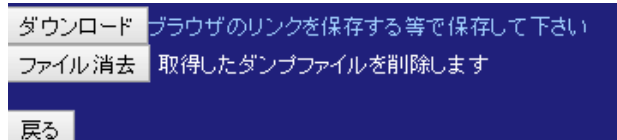
[パケットダンプ取得中の表示例]



現在の状態を表示するには「更新」をクリックします。

パケットダンプを中止するには「中止」をクリックします。

ファイルを取得するには「取得」をクリックします。



ダウンロード

ブラウザのリンクを保存する等で、ダンプファイルを保存することが出来ます。

ファイル消去

「ファイル消去」をクリックすると、取得したダンプファイルを削除します。

ログ情報

1. システムログ

システムログを表示します。

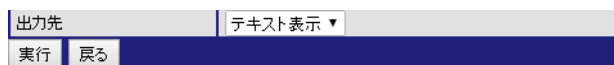
GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

運用機能

ログ情報

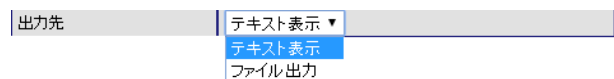
・システムログ

システムログ



出力先

システムログの出力先をプルダウンから選択します。



「実行」をクリックします。

2. ブートログ

ブートログを表示します。

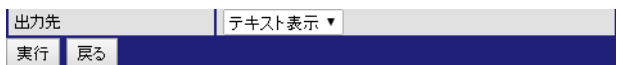
GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

運用機能

ログ情報

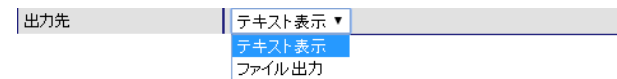
・ブートログ

ブートログ



出力先

ブートログの出力先をプルダウンから選択します。



「実行」をクリックします。

システム情報

1. システム情報

システム情報を表示します。

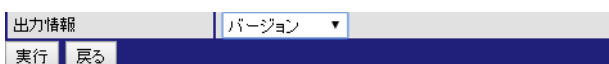
GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

運用機能

システム情報

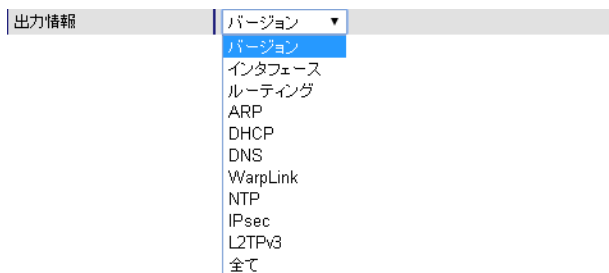
・システム情報

システム情報



出力情報

出力情報をプルダウンから選択します。



「実行」をクリックすると、選択した情報が表示されます。

2. テクニカルサポート

テクニカルサポート情報の表示、または取得を行います。

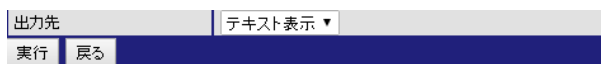
GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

運用機能

システム情報

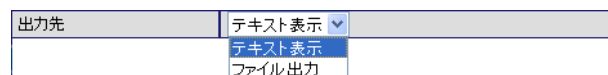
・テクニカルサポート

テクニカルサポート

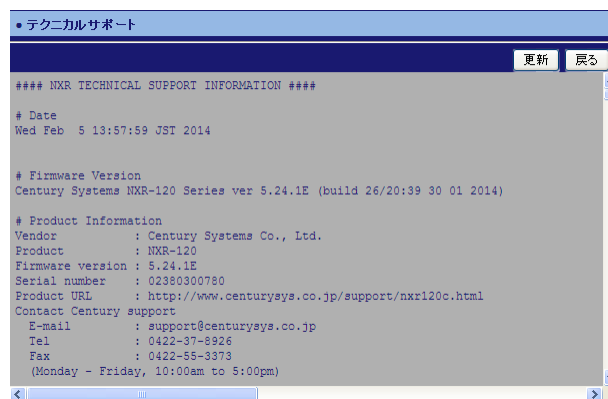


出力先

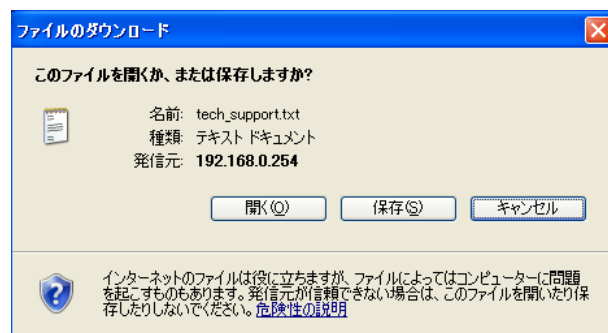
出力先をプルダウンから選択して、実行をクリックします。



「テキスト表示」を選択した場合は、テクニカルサポート情報が表示されます。



「ファイル出力」を選択した場合は、下記の画面が表示されます。GUIの指示に従ってください。



3. システムモニター

システム情報をグラフで表示します。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

運用機能

システム情報

・システムモニター

システムモニター

表示情報	Load Average ▾
表示時間	1 時間
自動更新	無効 ▾
更新間隔	分
実行 戻る	

表示情報

表示情報をプルダウンから選択します。

表示情報	Load Average ▾
	Load Average Free Memory Session シグナルレベル(mobile0) シグナルレベル(mobile1)

表示時間

表示時間 (1 ~ 168[時間]) を入力します。デフォルト値は、「1」です。

表示時間	1 時間
------	------

自動更新

「有効」 / 「無効」をプルダウンから選択します。

自動更新	無効 ▾
	無効 有効

更新間隔

更新間隔 (1 ~ 60[分]) を入力します。デフォルト値は、「なし」です。

更新間隔	分
------	---

「実行」をクリックすると、選択した情報が表示されます。

再起動

本装置、または各種サービスを再起動することができます。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

運用機能

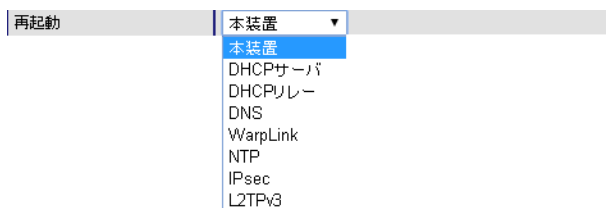
- ・再起動

再起動



再起動

プルダウンから、再起動するサービスを選択します。



- ・「本装置」を選択すると、システム再起動します。

「実行」をクリックします。

インタフェース

インタフェースのリセットをすることが出来ます。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

運用機能

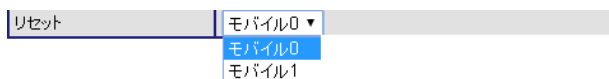
・インタフェース

インタフェース



リセット

プルダウンから、リセットするインタフェースを選択します。



「実行」をクリックします。

ディスク管理

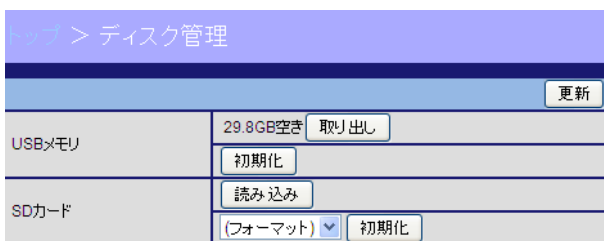
メディア（「USBメモリ」 / 「SDカード」）の取り出し、読み込み、初期化を行います。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

運用機能

- ・ディスク管理

ディスク管理



USBメモリ

- ・「取り出し」をクリックすると、「USBメモリ」を安全に取り出すことができます。
- ・「読み込み」をクリックすると、「USBメモリ」を読み込みます。
- ・「初期化」をクリックすると、「USBメモリ」を初期化します。

SDカード

- ・「取り出し」をクリックすると、「SDカード」を安全に取り出すことができます。
- ・「読み込み」をクリックすると、「SDカード」を読み込みます。
- ・「SDカード」をフォーマットするには、フォーマット形式（「FAT32」 / 「XFS」）を選択して、「初期化」をクリックします。

サポート情報

サポート情報を表示します。

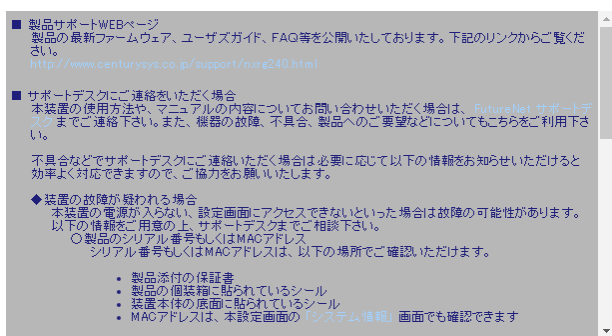
GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

運用機能

- ・サポート情報

サポート情報

サポート情報が表示されます。



付録

サポートについて

サポートについて

今後のお客様サポートおよび製品開発の参考にさせていただくために、ユーザー登録にご協力をお願い致します。弊社ホームページ内の各製品のサポートページで「ユーザー登録」をクリックすると登録用の画面が開きます。

サポートに関する技術的なお問い合わせやご質問は、下記へご連絡ください。

・サポートデスク

e-mail : support@centurysys.co.jp

電話 : 0422-37-8926

FAX : 0422-55-3373

受付時間 : 10:00 ~ 17:00 (土日祝祭日、および弊社の定める休日を除きます)

・ホームページ <http://www.centurysys.co.jp/>

故障と思われる場合は

製品の不良や故障と思われる場合でも、必ず事前に弊社までご連絡ください。

事前のご連絡なしに弊社までご送付いただきましてもサポートをお受けすることはできません。

ご連絡をいただく前に

スムーズなお客様サポートをご提供するために、サポートデスクにご連絡いただく場合は以下の内容をお知らせいただきますよう、お願いいたします。

- ・ファームウェアのバージョンとMACアドレス
- ・ネットワークの構成(図)
どのようなネットワークで運用されているかを、差し支えない範囲でお知らせください。
- ・不具合の内容または、不具合の再現手順
何をしたときにどのような問題が発生するのか、できるだけ具体的にお知らせください。
- ・エラーメッセージ
エラーメッセージが表示されている場合は、できるだけ正確にお知らせください。
- ・本装置の設定内容、およびコンピュータのIP設定
- ・可能であれば、「設定のバックアップファイル」をお送りください。

サポート情報

弊社ホームページにて、製品の最新ファームウェア、マニュアル、製品情報を掲載しています。

また製品のFAQも掲載しておりますので、是非ご覧ください。

下記のFutureNetサポートページから、該当する製品名をクリックしてください。

<http://www.centurysys.co.jp/support/index.php>

製品の保証について

本製品の保証期間は、ご購入から販売終了後5年間までです。

(但し、ACアダプタ及び添付品の保証期間はご購入から1年間とします。)

保証期間内でも、保証書に販売店印のないもの(弊社より直接販売したものは除く)、また保証の範囲外の故障については有償修理となりますのでご了承ください。

保証規定については、同梱の保証書をご覧ください。

FutureNet NXRシリーズ ユーザーズガイド GUI編 Ver.9.4.2対応版

2017年12月版

発行 センチュリー・システムズ株式会社

Copyright (c) 2009-2017 Century Systems Co., Ltd. All rights reserved.
